

## 米国における向社会的行動の分類学的研究

### (3) 向社会的行動の生起を促進, あるいは 抑制する動機, 原因, 理由

高 木 修

A Taxonomic Study of Prosocial Behavior in the United States of America

(3) Motives for Helping and Not helping

Osamu TAKAGI

#### Abstract

Pre-theoretical research is essential to the planning of research design, understanding of results and formulation of theory. In accord with these concepts, a series of taxonomic research projects has been carried out in Japan. As prosocial behavior is thought to be prescribed by social norms, the taxonomic study was conducted in the United States of America using a cross-cultural approach, with an emphasis on motives for helping and not helping.

Many and varied motives for helping and not helping were collected from samples obtained in the USA at the University of North Carolina, which is located in Chapel Hill, using CAPS(Computer Administered Panel Survey). Ten situations were shown where helping behavior occurred and also ten situations where it failed to occur. Then subjects of the survey were asked to type in as many motives for helping and not helping as they could think of during the study.

Content analysis revealed both situation specific and cross-situation motives for helping and not helping. In addition to a discussion on cultural differences, this project also produced a proposal for a future taxonomic research project designed to further clarify the structure of motives for helping and not helping.

Key Words: prosocial behavior, helping behavior, motive taxonomic research, cross-cultural approach

#### 抄 録

研究の計画, 研究結果の解釈, および理論の構築にとっては, 前理論的な分類学的研究が必要である。その視点から一連の研究が日本において行われ, 向社会的行動の類型, 行動特性次元, 規範的態度, および行動に関連する動機が明らかにされた。ところで, 研究の対象である向社会的行動は, 文化や下位文化によって規定されると考えられる。そのために, 比較文化的関心から, 同様の分類学的研究が米国において行われた。

この論文では, 米国における向社会的行動の規定要因, つまり行動の生起を促進する, あるいは抑制すると思われる動機, 原因, 理由に関する研究の結果が報告される。「キャップス」(CAPS) と呼ばれるデータ収集施設を利用して向社会的行動の生起に関連する動機, 原因, 理由が米国の大学生から集められた。

収集のために提示した10種類の行動別に, 促進要因と抑制要因が整理され, さらにそれらの行動に共通するそれらの要因も整理された。最後に, 今後の動機研究の計画とその際に研究者が利用出来るようにと, 行動の促進, あるいは抑制に関わる代表的な動機, 原因, 理由がリストにして提供された。

キーワード: 向社会的行動, 援助行動, 動機, 分類学的研究, 比較文化的研究

目 次

1. 問題
    - 1) 向社会的行動の分類学的研究
    - 2) 向社会的行動の促進, 抑制要因
  2. 向社会的行動の規定要因の研究
    - 1) 向社会的行動が求められている状況の特徴の研究
    - 2) 向社会的行動の動機, 原因, 理由の研究
    - 3) 向社会的行動の発達における動機, 原因, 理由の研究
    - 4) 向社会的行動の意思決定過程とその過程に影響する要因の整理
  3. 比較文化的関心からなされた向社会的行動の規定要因の研究
    - 1) 日本における向社会的行動を規定する要因の研究
    - 2) 米国における向社会的行動を規定する要因の研究
  4. 比較文化的関心から今後期待される向社会的行動の分類学的研究
- 参考文献

1. 問 題

1) 向社会的行動の分類学的研究

社会的行動の社会心理学的研究に関して、①たとえ同じ行動を研究するにしても、焦点を当てる側面が研究によって異なることが多く、したがって、それらの研究の知見から、一般的な理論を引き出し、将来の研究に役立てることが困難である、②研究者の個人的な理論枠組みに基づく研究の知見は、しばしば矛盾、対立する、③研究環境が明細化されていないことが多く、したがって、研究知見に基づく理論の一般化の限界が明らかでない、といった反省が為されている (Pearce, P. et al., 1983)。これらの問題を克服する1つの研究方法として、「分類学的、構造的論的接近法による前理論的な行動研究」が提案された (高木, 1991)。すなわち、この種の研究によって、①研究で取り扱うことが出来る向社会的行動の特徴に基づいて、当該行動の促進、あるいは抑制に関わると予想される要因を研究のために的確に選択することが可能になる、②研究のために選ばれた要因に関して明らかに異なる向社会的行動を適切に選択することによって、組織的に、また厳密に当該要因を操作する研究が可能になる、③研究において取り扱われた向社会的行動の特徴を参考にすれば、当該研究の結果の考察が、つまり、仮説検証の判断および理論導出が容易になる、④研究において取り扱われた向社会的行動の特徴に基づき、当該研究の知見の一般化の範囲を限定し、理論の包括性の程度を指摘することが可能になる、⑤研究において取り扱われている向社会的行動の差異を考慮に入れた上で、研究間の比較が可能になる、⑥研究知見にもし矛盾があれば、研究で取り扱われた向社会的行動の特徴から、その解決を図ることが出来る、といった効用が期待できる。

高木修は、このことを目的にして、日本において (1982, 1983, 1987a, 1987c)、さらに比較文化的な関心を追加して、米国において向社会的行動の分類学的研究 (1991, 1992) を行ってきた。

この研究は、特に、上記①の効用を目標にして、しかも、その文化的な差異の究明も目的にして、米国において行われたものである。

## 2) 向社会的行動の促進、抑制要因

援助行動に代表される向社会的行動 (prosocial behavior) の生起を促進する、あるいは抑制する要因については、既に多くの研究が、種々の接近法を用いて明らかにしてきている。それらの研究で取り上げられてきた要因は、研究者によっていくらか異なるが、一般に、①援助者の人口統計学上の特性、あるいは人格特性、規範意識、社会的責任感といった援助の担い手の人的、内的特性に関するもの、②援助行動に伴うと予想される出費と報酬などの行動それ自身の特徴、援助者が一時的に体験しているところの情動状態、傍観者や援助モデルの存在、あるいは気温や騒音といった援助の環境の特徴などの援助状況の特徴に関するもの、さらに、③被援助者の人口統計学上の特性、あるいは外見の特徴や援助要請の仕方といった援助の受け手の人的、内的特性に関するもの、の3つに大別される。

一方、促進、あるいは抑制要因の解明を試みる研究が採用する接近法は、これも研究者によっていくらか異なるが、①実際の研究に先立って、理念的・演繹的に、あるいは実証的・帰納的に行動生起に関連すると思われる要因（特に、援助者の内的特性に焦点を当てる場合は、「動機」と呼ばれる）を分類・整理しようとするもの、②向社会的行動、例えば、思いやり行動の理由をいくつかのカテゴリーに分けて、子供の発達に伴ってその理由がどのように変化していくかを明らかにしようとするもの、③向社会的行動の実行、あるいはその非実行に至るまでの意思決定過程のモデルを提案するとともに、従前の研究知見を参考にして、その過程に影響を与えると思われる要因を整理しようとするもの、そして、研究の量としては圧倒的に多数を占めるが、④研究者が恣意的に選択した2、3の要因を組み合わせ、行動生起に及ぼすそれらの要因の効果を実験法などを用いて実証しようとするもの、の4つに大別される。

そこでまず最初に、今回の比較文化的な分類学的研究の説明に先立ち、種々の接近法で行動の規定要因を解明（整理）した以前の研究のいくつかを、上の要因の分類とも対応させながら、紹介しよう。

## 2. 向社会的行動の規定要因の研究

### 1) 向社会的行動が求められている状況の特徴の研究

Staub, E. (1979) は、援助行動を正確に予測するためには、その行動が向けられる目標の重要度と、この目標指向的な行動を生起させる状況の特徴とを理解する必要があると考え、特に次のように状況の主要な刺激特徴を9つ挙げている。

- ①状況の曖昧度：この状況は誰かが援助を必要としている状況であることをそこに居合せた人々に気づかせる程度のことであり、曖昧でないほど、援助は起こり易い。
- ②援助の必要度：どの程度の援助が、どの程度速やかに必要であるかという援助の重大性のことであり、一般には、必要と思われるほど、援助は起こり易い。
- ③援助責任の集中度：援助する個人的責任がどの程度特定の個人に集中しているかのことであり、集中しているほど、援助は起こり易い。
- ④状況刺激の扇動度：犠牲者に近接しているとか長時間その場に滞在するとか、その場から逃げ出すことが困難であるといった状況刺激の影響の程度のことであり、それが強力であるほど、援助は起こり易い。
- ⑤援助の主導度：援助が必要か、またどのような援助が適切かを援助者自身が自主的に判断し

表1 向社会的行動の基本特性（回転後因子負荷行列）

行動特性	第1特性	第2特性	第3特性	共通性
社会的規範による指示	818	207	043	714
援助要請の妥当性	723	184	078	563
非援助出費（社会的非難）	721	307	079	621
援助の重大性	716	159	261	606
援助報酬（社会的承認）	666	028	291	529
非援助出費（不満足）	660	336	-145	570
援助の緊急性	615	334	066	494
援助報酬（良い気分）	614	076	-031	384
援助報酬（感謝）	451	-055	353	331
非援助出費（恥）	161	923	-006	878
非援助出費（いやな気分）	199	834	-005	735
援助の個人的責任性	206	805	-013	691
非援助出費（自尊心の低下）	250	776	005	664
援助の明瞭性	153	667	-045	470
援助報酬（自尊心の高揚）	159	490	424	445
援助報酬（誇り）	086	476	473	457
援助の困難性	133	-194	745	610
援助出費（努力）	112	072	636	423
援助出費（金銭）	-102	-287	607	461
援助出費（危険）	168	166	540	348
援助出費（時間）	283	245	278	217
非援助報酬	-179	-078	370	175
援助の専門性	228	198	267	162
性役割に適合した援助	201	134	312	156
援助原因の帰属	-238	-241	-273	189
EIGEN VALUE	7.092	2.848	1.953	11.893
PCT OF VAR	59.6	24.0	16.4	100.0

（注）因子負荷量と共通性には、小数点が省略されている。

なければならぬ程度のものであり、主導性が要求されるほど、不適切な行動へのネガティブな反応を恐れて、援助は起こり難い。

⑥予想される援助出費と非援助報酬の大きさ：時間やお金や努力といった援助するために被るネガティブな結果と、援助するために諦めねばならない行為がもたらすポジティブな結果の大きさのことであり、それらが大きいと予想されるほど、援助は起こり難い。

⑦援助の社会的容認度：援助のための行為が社会的に容認されるかどうかを状況が教えてくれる程度のことであり、容認されると確信されるほど、社会的非難の心配がなく、援助は起こり易い。

⑧援助者と被援助者の関係の緊密度：両者の関係がどのような好ましい種類のもので、どの程度緊密な関係かのことであり、緊密であるほど、共感など援助促進要因が喚起されて、援助は起こり易い。

⑨援助者の心理状態：援助要請に併発した、あるいはその直前の援助者の気分や感情の性質のことであり、一般に、ポジティブなそれは援助を促進し、ネガティブなそれは援助を抑制する。

高木修（1982）は、援助が求められている状況の特徴の効果を取り扱った以前の研究を整理して代表的な状況特性次元を選定し、さらにその次元構造を明らかにしている。すなわち、25種類の状況特性（表1）の各々が典型的な22種類の援助行動（図1）の各々にどの程度あると思うかを「非常にある」から「全くない」までの5段階で評定することを被験者に求め、その評定に基

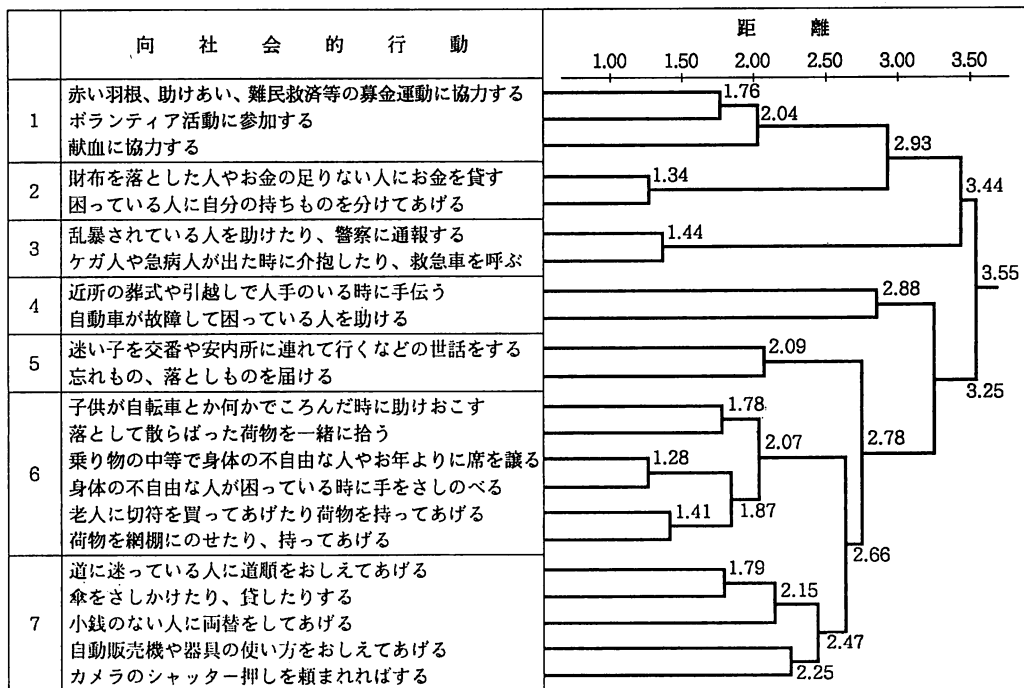


図1 向社会的行動の構造（クラスター分析結果）

づき算出された特性間の相関の行列に因子分析法を適用して、以下のように命名された3つの基本的な状況特性(因子)を発見した(表1)。そして、援助行動が生起し易いかどうかは、該当の状況がそれらの特性をどの程度強く持っているかに依存するとした。

- ①社会的規範の指示とそれに基づく社会的結果：ある人は、人々が容認できる理由で援助を要請(必要と)しており、しかも援助を即刻受けないと重大な事態に陥ってしまうと予想される。したがって、その場にいる人々は、社会的規範がその人に援助の手を差し伸べることを指示している(すなわち、自分たちにとって重要な他者が期待している)だろうと推察する。そして、彼らは、その社会的規範に従って援助すれば、他者からの社会的承認が勝ち取れ、被援助者が感謝しているのを知って良い気分になれるが、もし規範の指示に背けば、他者からの社会的非難に苦しみ、そのような思いやりのない自分に不満足感を覚えるだろうと予想する。
- ②個人的規範の指示とそれに基づく個人的結果：ある人が援助を要請(必要と)していること、しかもそこではどのような援助が適切かも明らかである。したがって、その場にいる人々は、社会的規範(重要な他者)への配慮とは別に、自分個人としてその人を助けるべき道徳的責任があると確信する。そしてまた、このような個人的規範の指示(自己期待)に従えば、そのような自分に誇りを持つことができ、自尊心は高揚するが、規範の指示に背けば、そんな自分を恥ずかしく思い、嫌な気分になり、自尊心も低下するだろうと予想する。
- ③援助出費：その場にいる人々は、社会的、個人的規範への配慮とは別に、援助するためには何を犠牲にしなければならないかも考慮する。援助を要請(必要と)している人に対して適切で、有効な援助をすることは困難かもしれない。そのためには専門的スキルや技術が必要であるかもしれない。また、援助するためには、身体的努力、金銭、あるいは時間を浪費しなければならないはず、ひょっとすると自分を危険に曝すかもしれないなどと想像するだろう。また、男でも女でも誰が援助を試みても良いという訳でもないかもしれないと考える。そして、彼らは、もし援助に失敗すれば自分の無能さをさらけ出して恥ずかしい思いをするかもしれないと不安になるかもしれない。さらに、援助することによって不可能になる別の行為にかえって魅力的なことが伴うかもしれないと推察する。

## 2) 向社会的行動の動機、原因、理由の研究

Reykowski, J. (1982) は、向社会的行動を整理し、その根底にあって生起に関わる動機を理念的に次の4つに分類している。

- ①内利性(ipsocentric)動機：報酬を獲得する、あるいは罰を回避することを期待して向社会的行動を行うというものである。つまり、行動の道具性や功利性に重点を置いた動機である。愛他主義の仮面を着けた利己主義がその根底にある。
- ②内心性(endocentric)動機：内面化された個人的規範、道徳的基準に従うことを目的に向社会的行動を行うというものである。つまり、自尊心の高揚の達成を、逆に自尊心の低下の回

避に重点を置いた動機である。規範同調が目標で、困っている人の要求の実現は二の次とされ、独善的な行動になる危険性がある。

- ③内発性 (intrinsic) 動機：他者の要求を正確に知覚し、彼らの利益を守ることそれ自身を目標に向社会的行動を行うというものである。つまり、困っている人の要求を満たし、彼らの状況の改善に重点を置いた動機である。真の愛他的な行動がなされる。
- ④個人的規準の般化 (generalization of personal standards)：他者の内で、特に心理的距離の近い人の要求を正確に知覚し、彼らの利益を守ることが目的に向社会的行動を行うというものである。

原田純治 (1990) は、援助行動の内的規定要因として援助動機と性格を採り上げ、行動とそれらの要因との関連を研究した。原田 (1989) は、大学生が日頃の相互関係の中で「してもらって感謝した経験を持つ」ところの典型的な38種類の被援助行動のクラスター分析から以下のような代表的な行動を含む7つの援助行動型を得ている。

- ①金品の譲渡・貸与型：「お金を貸す」「食べ物を奢る」「プレゼントをあげる」
- ②紹介・勧誘型：「友だちを紹介する」「アルバイトを紹介する」「遊びなどに誘う」
- ③代行型：「友だちの代わりに買物に行く」「部屋の掃除をしてあげる」
- ④同調型：「買物について行く」「友だちにつき合っ出てかける」「一緒に帰る」
- ⑤小さな親切行動型：「落し物や忘れものを届ける」「棚の荷物を取ってあげる」「荷物を持ってあげる」
- ⑥助言・忠告型：「進路についての相談にのる」「恥ずかしいミスを指摘する」「落度がないように注意する」
- ⑦気遣い・いたわり型：「相手の様子を気遣う」「体の調子を心配してあげる」「病気のとき見舞う」

原田 (1990) は、まずその予備調査として、典型的な38種類の援助行動の各々に関して、その生起を規定する動機を自由記述で大学生から収集した。そして、得られた多数の動機を繰り返し内容分析して、18種類の代表的な動機（以下の動機因子に高く負荷する動機項目を参照）にまとめた。つぎに本調査では、7つの援助行動型を代表する20種類の援助行動（以上の行動型を代表する行動を参照）の各々を行う理由として、18種類の動機の各々がどの程度当てはまるかを3段階で大学生に評定させている。そして、援助動機の因子構造を明らかにするために、この評定値を基に、動機項目間の相関を算出し、その行列に因子分析（主因子法、バリマックス回転）を適用した。その結果、以下のような動機項目が高く負荷する6種類の援助動機因子が得られている（表2）。

- ①援助の規範意識と合理的援助効用の予期：「その人が困っているから」「その人が助かるから」「困ったときにはお互い様だから」「自分も困ったことがあるから」「人を助けることは、気持ちがいいから」「頼まれたから」「その人の役に立ちたいから」

表2 援助動機の構造（回転後因子負荷行列）

援助動機	I 因子	II 因子	III 因子	IV 因子	V 因子	VI 因子	h <sup>2</sup>
その人が困っているから	.729	.139	.246	-.016	.045	-.016	.614
その人が助かるから	.717	.097	.139	-.008	.150	-.118	.579
困った時はお互い様だから	.673	.140	.245	-.112	.143	.044	.567
自分も困ったことがあるから	.605	.329	.290	-.050	-.037	.007	.562
人を助けることは気持ちがいいから	.571	.085	.128	-.059	.358	-.138	.500
頼まれたから	.470	.040	-.297	-.010	.080	-.075	.323
その人の役に立ちたいから	.464	.096	.248	-.001	.437	.001	.477
自分も～してもらってうれしかったから	.143	.696	.100	-.082	.252	.027	.586
自分も～して欲しい時があるから	.225	.680	.081	-.098	-.005	-.138	.548
仲の良い友達だから	.046	.461	.042	-.248	.187	.109	.325
その人のことが心配だから	.248	.096	.723	-.012	.046	-.040	.597
放っておけないから	.353	.048	.640	-.005	.032	-.089	.545
その人がかわいそうだから	.300	.100	.498	-.103	.090	-.298	.456
～することは大したことではないから	.070	.103	-.118	-.634	.040	-.038	.434
あたりまえのことだから	.021	.232	.296	-.558	.100	-.069	.468
その人が喜んでくれるから	.200	.366	.005	-.080	.561	-.074	.501
いつもお世話になっているから	.251	.342	.014	-.204	.428	.116	.418
～してあげないとその人に悪いから	.167	.127	.145	-.175	.045	-.440	.291
寄 与 率	34.60	18.76	19.03	10.01	13.27	4.34	

- ②互恵と友好的関係：「自分も～してもらってうれしかったから」「自分も～して欲しい時があるから」「仲の良い友達だから」
- ③被援助者への同情：「その人のことが心配だから」「放っておけないから」「その人がかわいそうだから」
- ④援助コストの低さと当然さ：「～することは、大したことではないから」「当り前のことだから」
- ⑤合理的でない援助効用の予期：「その人が喜んでくれるから」「いつもお世話になっているから」
- ⑥非援助の後ろめたさ：「～してあげないと、その人に悪いから」

原田（1990）は、さらに、援助行動と有意に関連する援助動機因子を明らかにするために援助行動（型）を目的変数に、各援助動機因子を説明変数とする重回帰分析を行っているが、紙数の都合で、その結果の紹介は、ここでは省略する。

### 3) 向社会的行動の発達における動機、原因、理由の研究

二宮克美（1991）は、Eisenberg-Berg, N. (1979) や Eisenberg-Berg, N. & Neal, C. (1979) を参考にして、自分のしたいことと他者からの要求が相対立する向社会的葛藤場面で、どう行動したら良いかの判断を子どもに求め、思いやり行動を選択する場合にその理由を彼らに尋ねたが、それらの理由が次のような大きく10個のカテゴリーに分類出来るとしている（鍵括弧内は典型的な反応例である）。

- ①権威や罰を強迫的あるいは神秘的に考える：「もし助けなかったら、誰かが私を見つけて罰



するだろう」

②快楽的理由づけ

(a)実際の快楽的利得：「助けなかったのは、自分がパーティに行きたかったから」

(b)直接的互惠性：「次に自分が困った時、助けてもらえるから」

(c)親愛関係：「友だちだから」

③快楽的でない実際主義：「私は強いから、助けてあげる」

④他者の要求への関心

(a)他者の身体的・物質的要求への関心：「怪我をしていて、その子が歩けないから」

(b)他者の心理的要求への関心：「助けてあげたら、その子がうれしがるだろうから」

⑤人間性への言及と関心：「同じ人間だから、困っている時はお互い様なので」

⑥紋切り型の理由づけ

(a)良い人・悪い人といった紋切り型のイメージ：「助けること（人）はいいこと（人）だから」

(b)良い行動・悪い行動の紋切り型のイメージ：「助けることは、当たり前だから」

(c)他者および他者の役割についての紋切り型のイメージ：「その子はいい子だから、助けてあげる」

⑦承認指向・対人指向：「助けたら、みんなが自分を好きになってくれる」

⑧明らかな共感指向

(a)同情指向：「かわいそうだから」

(b)役割取得：「自分が相手の立場だったら、助けてほしいから」

⑨内面化された感情

(a)単純な内面化された肯定的感情 および 行為の結果についての肯定的感情：「助けたら、自分がほっとするから」

(b)自尊心や自分の価値にこたえることから生じる内面化された肯定的感情：「自分の考えで助けたら、気分が良くなるから」

(c)行為の結果に対する内面化された否定的感情：「その子の怪我が悪くなったら責任を感じるから」

(d)自尊心の喪失や自分の価値にこたえなかったことから生じる内面化された否定的感情：「助けてあげないと、後で自分を責めなくなるから」

⑩抽象的で内面化された理由づけ

(a)内面化された法律、規範、価値指向：「助ける義務があるから」

(b)他者の権利への関心：「困っている相手の人にも生きる権利があるから」

(c)一般化された互惠性：「人々は互いに助け合った方がいいから」

(d)社会状況への関心：「みんなが助け合ったら、社会はもっとよくなるから」

二宮は、こうした理由を学年別にみて、紋切り型の理由や承認指向・対人指向の理由が、学年

が上がるにつれて減少し、逆に、役割取得や内面化された法律、規範、価値指向などの理由が増加することを明らかにしている。なお、これらの理由を分析し、思いやり行動についての思考の発達に、年齢と結びついた6つの発達レベルのあることが指摘されているが、ここではその紹介を省略する。

#### 4) 向社会的行動の意思決定過程とその過程に影響する要因の整理

ここでの目的は、行動生起過程に関するモデルの適否を評価することではなく、むしろ、向社会的行動の生起に影響すると思われる要因を整理することである。そこで、従来の研究を整理することを主目的とした Bar-Tal, D. (1976) のモデルを紹介し、向社会的行動の生起を規定することが明らかにされている要因を概観することにする。

Bar-Tal, D. (1976) は、援助が必要な状況の特徴により引き起こされる心理的、行動的反応は異なると考え、その状況を緊急と非緊急に分け、それらの状況毎にモデルを設定している。ここでは、規定要因に関して状況間で大差がないため、非緊急状況における愛他的な援助行動の意思決定過程に関するモデル(図2)を紹介する。なお、慈善団体に寄付する、老人の重い荷物を持ってあげる、席を譲る、落し物を届けるなどの援助行動が生起する非緊急状況は、①生命や財産に対する加害の恐れを、あるいは実際の加害を含まない、②日常生活の中で我々がしばしば直面するほどごくありふれている、③そこで求められている行動が、その場にいる人々に容易に理解できるほど明瞭である、④予知、予測することができる、⑤即座の、あるいは直接的に介入する行動を必要としない、という特徴を持つと定義されている(Bar-Tal, D., 1976)。

いかなる援助行動であれ、それを行うためには、まず第1に、「誰かが援助を必要としていることに気づくこと」(Awareness)が必要である。すなわち、その場に居合わせて援助すること

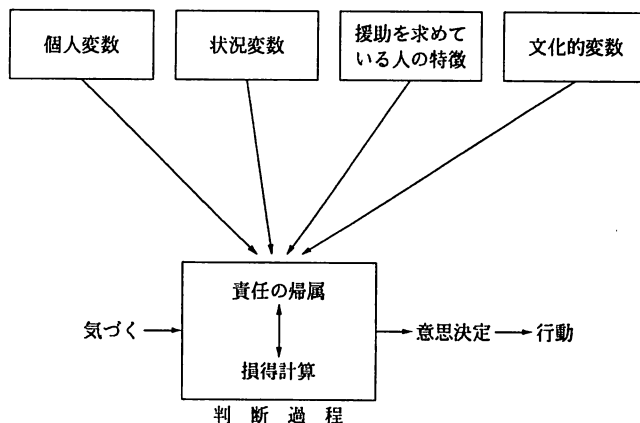


図2 非緊急事態での意思決定過程 (Bar-Tal, 1976)

が可能な“潜在的援助者” (potential helper) は、他の誰かが助けを求めていることに気づかなければならない。この第1条件が充されて初めて、潜在的援助者は、援助するかどうか、また、どのように援助するか意思決定を進めることになる。なお、この意思決定は、次の2つの判断に依存する。第1の判断は、「この人はなぜ援助を必要とするこのような状況に陥ったのか」という援助要請の責任の帰属 (Attribution of responsibility) である。これは、他者の行動や状況の因果の所在 (causal locus) を判断することであり、それが他者自身の側にあるか (内的・個人的)、あるいは環境の側にあるか (外的・環境的) の責任、原因を推定することである。第2の判断は、「自分が求められている援助行動を行うためには、どの程度の犠牲 (出費) を払わねばならないか、また逆に、どの程度好ましい結果 (報酬) を期待することができるか」という出費—報酬予測 (Cost-reward calculation) である。つまり、見積られた出費と報酬を基に、その援助行動が行うに値するものかどうかの判断である。この2つの判断は、相互規定的に関係し合い、その結果、援助するかどうか、また、どのように援助するかが意思決定され (Decision)、最終的にそれが実行される (Behavior) のである。

Bar-Tal のモデルでは、認知的判断過程に対して4種類の要因 (Variables) が相互に作用し合って影響を及ぼすとされている。その要因とは、①個人的 (Personal) 要因、②状況的 (Situational) 要因、援助を必要としている人の特徴 (Characteristics of the person in need)、④文化的 (Cultural) 要因である。モデルそれ自身の説明はここでの目的から外れるため、以上4つの要因の詳解を行うことにする。

#### ①個人的要因：潜在的援助者が持っている持続的な特徴

援助行動の個人差は、少なくともその一部分、個人的要因に依存すると思われる。そこで、行動の個人差や個人内の一貫性を説明するために、種々の個人的要因と援助行動との関連性が検討されてきた。なお、この個人的要因は、(a)人口統計学的特徴と、(b)人格特性とに大別される。

##### (a)人口統計学的特徴

###### 1. 性別

多くの研究は援助行動の性差を発見しているが、それを発見しなかった研究もいくらかある。この研究知見の非一貫性は、一つの可能性として、研究の中で求められた行動の性質や状況の特徴に起因すると思われる。例えば、性差を発見した研究では、自動車の修理工場に電話をかけるという普通男性がする仕事とかこぼれ落ちた雑貨品を拾うという体を動かす援助が求められた。これに対して性差を発見しなかった研究では、質問紙を綴じるのを手伝うとか誰かに電話をするといった簡単な援助行動が求められた。このように、女性の役割に適合しない、あるいは身体的努力を要する行動は、女性にとっては骨の折れることであり、それゆえに、彼女たちは援助を拒否し勝ちである。さらに、一層多くの出費を必要とするという理由で、当惑やきまりの悪さを伴うと予想される、あるいは行為の結果が予想しにくい不

明確な状況でも、女性は援助を拒否する傾向にある。

性差は、他の要因と交互作用して現れることもある。例えば、男性は、依存の程度の低い人の方を一層援助するが、女性は、強く依存してくる人の方を一層援助する。これは、伝統的な性役割から説明されている。つまり、男性は自分の社会的地位を通常強く意識しており、援助が自己の社会的地位の利益を瓦解させることを恐れる。一層依存的な人の要請に応える方が一層大きな出費となるため、男性にはそのような人を助けることを拒否する傾向がある。一方、女性の伝統的な性役割は、依存する人に対してできるだけ援助することを指示している。一層依存的な人の要請に応えることが一層大きな報酬となるため、女性にはそのような人を進んで助けようとする傾向がある。

## 2. 人種

多くの研究は、援助行動の人種差を発見していない。しかし、被援助者の特徴と交互作用して、人種の要因が援助行動に影響を与えることを発見した研究もある。例えば、被援助者の人種とそれとが交互作用するが、それは被援助者の特徴の項で説明する。

## 3. 年齢

愛也性の発達の研究で明らかのように、加齢に伴って、人々は、自ら進んで一層多くの援助を与えようとする。

### (b) 人格特性

多くの研究が、特定の人格特性と援助行動との間の関係を検討してきた。しかし、その関連性を見いだした研究は少なく、また、研究間で一貫しないことも多い。比較的一貫する関連性が認められる人格特性に、社会的責任性がある。社会的責任尺度 (Harris, D. B., 1957) や価値尺度 (Allport, G. W. et al., 1960) で測定された社会的責任傾向は、種々の年齢段階において、種々の援助行動と正に相関した。

Schwartz, S. H. (1973) は、自分の行為が他者の幸せに影響を及ぼすことに気づく傾向 (AC) と他者のために行為する社会的責任を拒否する傾向 (RD) の2つの個人的傾向が援助行動と関係すると仮説し、それらの傾向を各々測定する尺度を考案し、それらの得点と正に相関する人格特性として、仲間によって評定されたところの思いやりの深さと信頼性と援助性を発見している。

一方、Gergen, K. J. et al. (1972) は、10の傾性特性 (屈辱, 自立性, 変化, 服従, 養育, 命令, 自己一貫性, 自尊心, 感動を求めること, 援助) と5種類の愛他的行動との間の関係を検討し、特性と行動の間に一貫した関係のパターンが存在しないこと、どの特性も行動の十分な予測因にならないことを発見している。そして、彼らは、これらの特性が多方向社会的行動と関係するだろうが、関係するか、また、その関係の質がどのようなものかは、問題となっている状況の型に依存するだろうとしている。

個人の特性と関係すると考えられてきた行動が、それ以上に多様な状況の特徴に規定され

ることが多くの研究によって明らかにされてきており、個人の特性に関する情報は、もしそれが行動に影響する状況の特徴に関する情報と結合しない限り、それだけでは行動の予測や理解にとって何ら役立つものとはならないであろう。

②状況的要因：行動の生起する状況の特徴と潜在的援助者の一時的な心理状態

(a)行動の生起する状況の特徴

1. 愛他的行動の観察

多くの研究は、潜在的援助者が援助している他者を行動のモデルとして観察するならば、その結果、将来彼（女）が一層援助し易くなることを立証している。そして、モデルの観察が観察者の行動に促進的影響を与えるのは、(イ)依存する人の要求に対して観察者を敏感にさせる、(ロ)愛他的行動の遂行可能性に観察者の注意を向けさせる、(ハ)特に不明瞭な状況において適切な行動を観察者が選択するのに役立つ、(ニ)愛他的規範の指示することを観察者に思い出させる、(ヘ)愛他的行動に伴うだろう出費と報酬に関する情報を観察者に提供する、からであると説明されている。

しかし、この愛他的モデルの観察効果にも限界があり、観察者が自分自身とモデルが似ていないと知覚すると、後の行動に及ぼす効果はあまり期待できない。また、モデルが、観察者に自分と同様の愛他的行動を強要する場合、観察者は自分の自由が制限されたと感じてそれに抵抗し、観察効果は現れない。

他方、援助を拒否する利己的なモデルの観察は、観察者に同様の利己的行動を観察学習させるだろうが、これとは逆に、そのようなモデルの観察が愛他的な行動を誘発することもある。これは、利己的モデルが観察者の規範的期待に背き、それゆえに観察者がモデルの行動を正そうとする、あるいは、援助の拒否を通じてではあるが、利己的モデルが、観察者に自己の社会的責任を思い出させた、ためであると説明されている。

以上のように、援助する人や援助しない人の観察は、その観察者の愛他的行動に影響を及ぼすことが証明されている。

2. 加害行為の観察

多くの研究は、加害行為の観察が愛他的行動の遂行の可能性を増すことを立証している。そして、この効果は、加害行為の観察が、(イ)罪の意識を喚起する閾値を低め、観察者が愛他的規範の侵害に気づき易くする、(ロ)共感を喚起し、犠牲者の苦しみへの感受性を高める、(ハ)世の中には正義が存在するという信念を侵害し、犠牲者を援助することによってその不正義を正そうと観察者を動機づける、(ニ)否定的感情を生み出すので、良い感情を得るのに役立つ愛他的行動を動機づける、(ヘ)非援助出費と援助報酬を過大評価させるので、愛他的行動を進んで遂行しようという気持ちにさせる、(コ)援助要請の原因を外的に、つまり、犠牲者の統制を越えた要因に帰属させるため、愛他的行動を一層行おうという気持ちにさせる、からであると説明されている。

### 3. 以前の援助

多くの研究は、ある援助要請への応諾が以後の援助の可能性を増すことを立証している。例えば、Freedman, J. L. & Fraser, S. C. (1966) は、この状況を“foot-in-the-door”現象と呼び、「我々は、ひとたび小さな要請に応じるように仕向けられると、後の一層大きな要請にも応諾し勝ちである」と結論している。そして、この現象の根底にあるメカニズムを「自己知覚」(self perception)の変化から説明している。すなわち、我々は、ひとたびある要請に応じると、自分が見知らぬ人から為された要請にも応えることのできる、好ましい動機を持って他者に協力できる、そのような種類の人間であると自己知覚する。したがって、後に別の要請が為されたとき、それを拒否すると、この自己知覚が傷つき、我々を不快にする。そこで、我々は、そのことを嫌い、後の要請にも応諾しようとするという。なお、Harris, M. B. (1972) は、Freedman らとは異なる説明をする。つまり、ある愛他的行動の要請は、社会的責任規範が指示することを顕現化する。それゆえに、我々は、その規範の影響を一層強く受けて、後の愛他的行動を進んで行おうとするという。

ところで、Cialdini, R. B., et al. (1975) は、“foot-in-the-door”現象とは手続き上むしろ逆の“door-in-the-face”現象を発見している。これは、「拒否されるであろう極端な要請を最初に行い、その後で適度の要請を行うと、それへの応諾が増す」という状況である。Cialdini らは、その理由を、潜在的援助者が要請の変化を要請者側の譲歩と受け取り、自分もその譲歩に報いなければならない(第2回目の要請に応諾しなければならない)という圧力を感じるからであると説明している。

### 4. 他者の存在

潜在的援助者が愛他的な行動を遂行する機会を与えられたとき、その場に他者がいることの影響は、種々の状況で研究されてきた。例えば、Latané, B. (1970) は、愛他的な行動が求められている状況に消極的な傍観者がいると、その行動の生起が抑制されるという傍観者効果(bystander effect)を発見している。そして、Latané は、他者存在が、潜在的援助者の行う reward-cost 分析と責任性の帰属判断に影響するからであると傍観者効果を説明している。すなわち、他者の存在は、援助責任、傍観者間の非難、および非援助に伴う罪の意識を分散するという理由で、非援助出費を減少させるからであるとする。さらに、特に不明瞭な状況においては、不適切に行動して失笑を買う恐れがあり、潜在的援助者は、その場に居合わせる傍観者の判断に頼り、消極的な他者に同調する傾向があるからであるとする。

しかしながら、他者の存在が援助の可能性を増す状況もある。例えば、Goodstadt, M. S. (1971) は、潜在的援助者が援助要請者を嫌っていることを観察者が知っている状況においては、援助を断ることが潜在的援助者の恥辱になるため、援助要請に応諾する傾向のあることを発見している。

## 5. 依存の程度

援助を必要としている人が潜在的援助者に依存する程度は、愛他的行動の生起に影響を与える。すなわち、低依存の人よりも高依存の人に対して一層その要請に応える傾向のあることが立証されている。これは、援助の拒否が内在化された愛他的規範の指示を侵害して人を不快にするが、その程度は、依存の程度が大きいほど強いからである。

しかしながら、依存の程度にも限界がある。援助するためにあまりにも多くの努力が必要ならば、あるいは、極端と思えるほどの他の出費が予想されるときには、潜在的援助者は援助の拒否を決定するようである (Pomazal, R. J. & Clore, G. L., 1973)。

### (b)潜在的援助者の一時的な心理状態

#### 1. 気分

気分 (moods) が愛他的行動に影響することは、いくらかの研究によって証明されている。例えば、Isen, A. M. (1970) は、ある作業に成功、あるいは失敗させることによって感情状態を操作し、失敗した被験者よりも成功した被験者が後の援助状況において一層積極的に行動することを発見し、「成功による心暖まる満足感」(warm glow of success) の経験が他者を一層好意的に感じさせるためであるとその理由を説明した。なお、Isen は、これの代替説明として、成功が、それを達成した人に自分を有能な人間と知覚させるので、成功者は、自分なら援助を必要としている他者を助けられると考え易いからであるとしている。

同様に、気分の影響を研究して、良い気分が愛他的行動を促進することを立証した Berkowitz, L. (1972) は、Isen とは異なる説明をしている。すなわち、良い気分の経験は、潜在的援助者が持っている欲求不満耐性と行為の自由の拘束を進んで受容する傾性にと影響し、嫌な気分の人よりも良い気分の人の方が、援助要請が自分に課す要求に一層耐えることができるだろう。また、気分は、潜在的援助者の共感能力にも影響し、成功は、その共感能力を拡大するであろうとしている。

種々の方法によって喚起された感情状態が研究されたが、一般に、良い気分の方は、悪い気分や中性的な気分の人よりも、一層愛他的になり易いことが繰り返し証明されている。このように、気分は援助するかどうかに影響し、心地よい感情を経験すること、有能と感ずること、成功したと感ずることは、援助に対する自己報酬を増し、援助出費を減じ、逆に、不快な感情を経験すること、無能と感ずること、失敗したと感ずることは、非援助出費を減じ、援助出費を増すようである。

### ⑨被援助者の特徴：援助を必要としている人の特徴

愛他的行動を行うかどうかの決定は、被援助者の特徴にも依存する。それは、潜在的援助者が、被援助者の性別、人種、年齢などの特徴に基づいて、なぜその人が援助を必要とするようになったかを判断し、また援助にどの程度の出費と報酬が伴うかを見積るからである。

#### (a)援助要請者の人口統計学的特徴

## 1. 性別

性別を扱った研究の大部分は、女性が一般に男性よりも一層援助され易いことを発見している。この一貫する知見は、次のように説明された。援助を必要とするようになった原因の帰属と援助の関係において、内的帰属よりも外的帰属が為されたときに、一層援助が起り易いが、男性よりも女性の場合に、この外的帰属がされ易い。つまり、彼女の統制を越えたところに援助要請の原因があると判断される傾向がある。これは、多分、男性の方が問題の解決能力を持っていると知覚され易いからであろう。このような場合、非援助出費は、女性の場合に一層大きいと考えられる。さらに、女性を援助する場合、彼女が援助者を害したり傷つけたりすることはあまり無いと知覚されるので、援助出費は小さいと計算されるからであろう。

## 2. 人種

我々は、一般に、自分たちと似ていない人よりもよく似た人を一層援助し勝ちである。したがって、自分と同じ人種の人を一層助けようとするだろうと予想される。これは、多分、同じ人種の人を助ける方が、一層報酬的であり、また、出費が少ないと計算されるからであろう。

ところで、人種は、責任の帰属においても影響力を持つようである。つまり、潜在的援助者は、自分と同じ人種の援助要請者に関して、その責任を外的に帰属し易く、異なる人種の人の場合、内的帰属をし易い。それゆえに、同人種の要請者を援助し易いのであろう。

Thayer, S. (1973) は、潜在的援助者と援助要請者の人種と性別を操作し、次のことを発見している。潜在的援助者が男性の場合、(i)自分と同じ人種の人を援助するとき、要請者の性別が決定的な要因となり、男性よりも女性に対して、一層多くの援助が為された。しかしながら、(ii)自分と異なる人種の人を援助するときは、要請者の性別は決定的要因とはならず、男性も女性も同程度に援助された。一方、女性の場合、(i)自分と同じ人種の人を援助するとき、要請者の性別は決定的要因ではなかった。しかし、(ii)自分と異なる人種の人を援助するとき、要請者の性別は、潜在的援助者が白人では、決定的要因とならず、黒人では決定的要因となった。

## 3. 年齢

援助を必要としている人の年齢も、援助に影響することが証明されている。一般に、年輩の人は、若い人より援助され易いようだ。これは、年をとると、通常人々は、精神的、身体的能力が落ち、機敏性を失う。したがって、若い人々よりも、援助が必要であると知覚され易い。そのような年輩の人々の援助を拒否すると、その出費は相当多いと計算される。

(b)援助要請者の外見的特徴や潜在的援助者との関係

### 1. 身体的外観

潜在的援助者の意思決定に援助要請者の身体的外観の種々の特徴が影響することは多くの



研究によって明らかにされている。例えば、太っている人は、そうでない人よりも援助を受け易かった。また、髪の毛の長さや服装のスタイルも援助に影響した (Graf, R. C. & Riddell, L. C., 1972)。肩まで届くほどの長い髪の毛、灰色の作業シャツとブルーのジーンズ、サンダル履きという姿の若者は、髪の毛を短く刈り上げ、スポーツシャツとプレスされたスラックスを着て、黒のシューズを履いた若者ほど援助されなかった。これは、多分、潜在的援助者が前者のような姿の若者に対して疑いや恐れを抱き、そのような人を助けるには出費がかかると思わせたのだろう。また、援助要請の原因帰属にも影響し、内的理由によってそのような事態に陥ったと判断させたのであろう。

## 2. 潜在的援助者と援助要請者の類似性

前述のように、人が自分とよく類似した人を援助し勝ちであるのは、多くの研究で明らかにされている。それらの研究では、種々の点での潜在的援助者と援助要請者の類似性が検討されたが、その大部分は、両者の態度の類似性であった。例えば、大統領選挙の投票日に行われた研究 (Karabenick, S. A., et al., 1973) では、キャンペーン活動中を装った実験者が2人の候補者のいずれかを支持するプラカードの束を投票所の前の道路に誤って落としてしまったという振りをし、たまたまそこを通りかかった通行人がそれらを拾うのを手伝うかどうかを観察された。その結果、キャンペーン活動家の態度（プラカードの支持者）と同じ態度（政治的好み）を通行人が持っているときに、一層援助行動が示された。これは、類似性が対人魅力を生じさせるので (Byrne, D. E., 1971)、潜在的援助者は、自分に似ている要請者に対して一層援助的になったのであろう。

## 3. 潜在的援助者と援助要請者の関係性

多くの研究では、援助要請者は潜在的援助者にとって見ず知らずの人である。しかしながら、援助は既知の者の間でなされることも多く、その関係の質が援助行動に影響を与えることは十分に予想される。いくらかの研究がこの問題意識から行われ、一般に、両者の関係が密接であるほど、援助が遂され易いことを発見している。例えば、ある研究 (Sharabany, R., 1974) では、被験者の子供が、まず最初に、仲の良い友人の名前をその順番に6人書くように求められる。その後で、彼らは、それらの友人に対する自分たちの、寄付と援助、強制と受容、信頼と忠誠などの行動に関する質問に回答することを求められる。そして、第1位の友人に対する行動評定と第6位のそれらが比較された。その結果、全ての子供が、一般に、第6位の友人よりも第1位の友人に対して、一層愛他的に行動することが明らかとなった。さらに、第1位の友人として相互選択している場合に、順位によるその差が一層大きいことも明らかとなった。

このように、潜在的援助者は援助要請者と自分の関係が緊密であるほど援助し易いようだが、これは、近い関係にある人を援助する方が、潜在的援助者にとって一層報酬的であることを暗示している。

④文化的要因：潜在的援助者が所属する社会や集団において望ましい行動を規定する規範や価値観

社会における人々の行動は、そこに内在する文化の一部分であるところの規範によって統制されている (Krech, D., et al., 1962)。集団はそれぞれ独自の規範を持っており、それが、種々の状況において適当な行動と適当でない行動に関するルールを明確にする。集団の成員は、通常、同じ価値観を持ち、同じ規範の規定に従う。これは、彼らが、規範に同調すれば肯定的結果を、それから逸脱すれば否定的結果を受けることを知っていて、できるだけ肯定的強化を受け、否定的結果を避けようとするからである。

愛他的行動は、特定の文化や規範によってある程度統制されるだろう。したがって、文化や規範意識を異にする人々は、愛他的行動において相違すると予想される。残念ながら、愛他的行動に及ぼす文化の影響を研究したものは少ない。

Feldman, R. E. (1968) は、1つの比較文化的研究を行った。道順を尋ねられる、あるいは、切手の貼ってある、または貼っていない手紙を投函するように依頼されるという状況において、パリ、アテネ、ボストンの市民が、外国人、あるいは自分と同国人に対してどのように援助行動を示すかが研究された。その結果、文化を異にする3都市の人々の間には、確かに援助行動を異にする傾向があったが、彼らの行動は、むしろかなりの程度状況の特殊な条件によって決定されることも明らかとなった。したがって、この研究からは、文化的差異についていかなる確定的な結論も引き出すことができなかった。

Berkowitz, L. (1966) は、アメリカとイギリスの少年の愛他的行動を比較した。アメリカの少年は、3つの異なる社会・経済的水準の階層(官僚、事業家、労働者)から、イギリスの少年は、官僚と労働者の2つの階層から集められた。そして、実験は2つの段階で行われた。まず第1段階で、被験者の半数の少年は、別室にいるもう一人の少年に課題の進め方についての説明文を書くように指示され、さらに、うまく説明ができ、しかももしもう一人の少年が頑張って作業成績を上げることができればあなたは賞品がもらえると告げられる。残りの半数の少年は、同様に賞品を勝ち取ることができるかもしれないが、それはもう一人の少年の成績に左右されないと告げられる。その後、さらに、各群の半数の少年は、あなたが賞を得られるようにともう一人の少年は頑張って作業していると、各群の残りの半数の少年は、もう一人の少年が真剣に作業していないと告げられる。つぎに第2段階に移り、二人の少年の役割は逆転され、今度は、被験者の少年がもう一人の少年の書いた説明に従って作業し、その少年が賞を得られるように頑張って作業することになる。なお、その際、半数の被験者は、自分の以前のパートナーと組んでいると、残りの半数の被験者は、パートナーが以前の少年とは違うと告げられる。さて、第2段階において、被験者の少年は、どの程度頑張って作業に取り組んだかが観察記録された。その結果、アメリカの少年とイギリスの少年の行動は、全般によく似ていること、事業家の家庭のアメリカの少年と労働者家庭のイギリスの少年は、彼らが以前援助を受け

た少年に対してのみ援助的であることが明らかとなった。

Krech, D., et al. (1962) は、複雑な社会の中には、「多少とも特徴的な、異なる生活目的を持つ多数の下位文化あるいは部分文化」が存在すると指摘している。この下位文化は、社会階層や人種の差異などに基づいている。そのため、いくつかの研究が、社会階層による愛他的行動の違いを検討してきた。

Muir, D. E. & Weinstein, E. A. (1962) は、中流階層の女性が、交換原理に従って他者と接し、かつて自分たちを援助してくれた人々に進んで返礼する義務を強く感じ、他方、下流階層の女性は、以前の援助とは関係なく、可能なときには進んで援助しようとする傾向があるとしている。

Berkowitz, L. & Friedman, P. (1967) は、種々の社会的階層の家庭の少年の愛他的行動を比較し、事業家の家庭の少年と官僚や労働者の家庭の少年の間に差異があることを示唆した。すなわち、前者の少年たちは交換原理に導かれ、以前受けた援助の程度だけ援助する傾向があり、一方、後者の少年たちは愛他的規範を遵守し、以前の援助とは無関係に、困っている人がいれば援助する傾向があるとしている。

### 3. 比較文化的関心からなされた向社会的行動の規定要因の研究

人々の行動は、彼らが所属する社会に特有な一般的文化、さらには階層などに独特な下位文化によって影響されていると考えられる。換言すれば、社会的行動の生起を規定する要因とその規定の仕方には種々の水準の文化差が存在すると推察される。行動の文化的規定因の中で最も重要な一側面であるとしてしばしば研究されてきたものに社会的規範があるが、これについては、Bar-Tal のモデルの説明にあったように、典型的な社会的行動の一つである向社会的行動が、社会や階層に内在する規範によって統制されていることが既に証明されている。ところで、行動生起に関する文化差は、このような規範によるものに限定されないだろう。規定因の種類や規定の程度や方向などにおいても文化による差異が存在すると考えられる。

高木修 (1982, 1983, 1984, 1987a, 1987b, 1987c, 1991) は、日本において向社会的行動の分類学的研究を行い、向社会的行動の類型、行動に関連する規範的態度および行動を規定する要因（動機、原因、理由）の各々の構造、ならびにそれらの間の関連性を明らかにしている。しかし、それらの研究知見を比較文化的視点から眺めてみると、それらが、日本の文化に特有なものか、それとも他の文化においても認められるものかは、これらの研究だけからでは即断できない。その疑問に答えるためには、日本と文化を異にするとと思われる国々において同一の手続きによる研究を行う必要がある。しかし、高木修 (1991, 1992) は、既に、米国において行われた向社会的行動の分類学的研究の結果を報告し、行動類型と規範的態度の文化差を指摘している。そこで、本研究では、日本研究との比較という目的で残されているところの、向社会的行動の生起

を促進する、あるいは抑制する要因（動機、原因、理由）の解明を行うことにした。

1) 日本における向社会的行動を規定する要因の研究

(1) 向社会的行動の促進要因の解明

高木修（1983）は、向社会的行動の生起を促進する要因（動機、原因、理由）とその構造を解明している。研究の第1段階として、高木修（1982）の究明した7種類の向社会的行動群(図1)のそれぞれを代表するものとして合計12種類の行動が選定され(表3)、それらの行動の生起を促進すると思われる要因が次のような手続きによって収集された。例えば、「赤ちゃんを抱いた人(Y)が電車に乗ってきたので、Xは自分の席をその人に譲りました。なぜXはYに自分の席を譲ったのでしょうか。その行動の動機、原因、理由になったと考えられるものを思いっただけ多く、自由に記して下さい。」と被調査者(36名の男女大学生)に求めた。このような質問が他の11種類の行動に関しても行われた。そして、その結果、12の全行動に関して、209種類、延べ907個の動機、原因、理由が得られた。つぎに、第2段階として、その内容に基づきそれらを繰り返し整理し、最終的に25種類の代表的な促進要因(動機、原因、理由)がまとめられた(表4)。さらに、第3段階として、この25種類の要因が、12種類の向社会的行動のそれぞれにおいて、どの程度その生起を促進する動機、原因、理由になると考えるかを、「非常になる」(5点)から「全くならない(1点)までの5段階で評定するように、別の105名の男女大学生に求めた。そし

表3 動機研究で用いられた12種類の向社会的行動  
(基本特性と応答された援助および非援助の動機の件数)

向社会的行動群		基本特性			研究で用いた向社会的行動		応答された 動機の件数
No.	群名	第1	第2	第3	No.	行動状況	
1	寄付・奉仕行動	0	-	+	7	献血要請に応じる(応じない)	69(66)
					12	募金要請に応じる(応じない)	78(100)
2	分与行動	-	-	+	8	困っている人にお金を貸す (貸さない)	73(64)
3	緊急事態における救助行動	+	+	+	6	怪我人のために救急車を呼ぶ (呼ばない)	46(72)
					10	火事現場で消防活動に協力する (協力しない)	67(60)
4	努力を必要とする援助行動	0	-	+	5	引越しの手伝いをする(しない)	113(95)
5	迷い子・遺失者に対する援助行動	+	+	-	2	落とし物を警察に届ける(届けない)	89(80)
6	社会的弱者に対する援助行動	-	+	-	3	老人の重い荷物を持つ(持たない)	79(99)
					9	赤ちゃんを抱いた人に席を譲る (譲らない)	55(79)
					11	荷物を拾うのを手助けする (しない)	53(72)
7	小さな親切行動	-	-	-	1	小銭のない人に両替をする (しない)	88(87)
					4	道順を教える(教えない)	97(87)

表4 援助動機の型構造(回転後因子負荷行列)

援助動機型の番号	援助動機の番号	援助動機	援助動機型							
			I	II	III	IV	V	VI	H	
1	5	援助の能力や資格が自分にあると思ったから 互いに助け合わねばならないと思ったから 援助の義務が自分にあると思ったから 援助が必要だと思ったので	.733	.185	.136	.140	.029	.003	.611	
	4		.728	.306	.158	.018	-.168	.013	.677	
	23		.703	.217	.220	-.118	.111	-.033	.617	
	12		.625	.408	.096	.078	-.072	.080	.584	
2	18	誰一人として援助しようとしなかったから Yの近くにいたので 自分以外に誰もそこにいなかったの Yが気の毒に思えたので	.173	.746	.114	.057	.058	.065	.610	
	20		.085	.690	.045	.112	.041	.085	.506	
	3		.187	.654	.022	.001	.041	.272	.539	
	19		.310	.629	.217	.111	-.074	.030	.558	
3	24	今まで援助されたことがあったので 援助に成功して良い気持になったことがあったので 何か良いことをしてみたいから 今までに援助したことがあったから	.186	.058	.776	-.041	.024	.225	.693	
	22		.102	.166	.766	.237	.187	.025	.717	
	25		.085	.085	.606	.465	.030	-.056	.601	
	6		.403	.093	.540	.239	.042	.056	.524	
4	2	そのとき気分が良かったので Xが思いやりのある愛他的人だから Yが好ましい特徴を持っていたから 援助出費が小さかったから	-.046	.076	.137	.746	.083	.029	.591	
	15		.222	.097	.110	.683	-.008	.157	.562	
	13		-.120	.074	.011	.637	.102	.431	.622	
	7		.087	-.054	.171	.505	.363	.058	.430	
5	17	援助しないためにこらむる出費が大きかったので 報酬や返礼が期待できたから 他者の目が気になったので 援助要請の原因が自分自身にあり、援助の責任を感じたから	.055	.056	-.044	.059	.827	.132	.712	
	21		-.110	-.015	.294	.028	.701	.105	.603	
	16		-.102	.259	.133	.241	.611	.039	.528	
	14		.424	-.042	-.246	.074	.502	.276	.576	
6	8	Yが自分の知っている人だったから Yが自分の好きな人だったから 直接援助を要請されたので 他の人が援助していたので 無意識に	.011	.040	.161	.113	.114	.817	.712	
	11		-.074	.037	.110	.278	.154	.779	.727	
	1		.120	.325	-.025	.005	.062	.507	.381	
	9		.193	.273	.308	.026	.190	.260	.311	
10	.230	.382	.020	-.041	.176	-.096	.241			
EIGEN VALUE			5.782	2.920	1.804	1.491	1.144	1.102	14.241	
PCT OF VAR			23.1	11.1	7.2	6.0	4.6	4.4	57.0	

て、そのようにして得られた 評定値の データに主成分分析法を適用し、その解をバリマックス回転して、以下のような 6 種類の 促進要因が 解明された (表 4)。この 促進要因とは、そのような 特徴がその 状況に存在する場合、向社会的行動が 起こり易いことを 意味していると考えればよい。

- ①行動促進的状況判断：我々は、お互いに助け合わねばならないと信じている。この状況は、援助を必要としていると思う。しかもその援助責任が私自身にあると考える。その上それを行う能力や資格が自分にはあると思う。
- ②責任の分散不可能性：気の毒な人がいるのに、誰一人としてその人を助けようとしていない。あるいは、自分以外に誰もその場にいないか、いても自分がその人の最も近くにいる。
- ③援助または被援助の好ましい過去経験：今までに援助されて助かったことがあり、今度は自分が何か良いことをしたいと思っている。あるいは、今までに援助して良い気分になったことがあり、また機会があれば援助をしたいと思っている。
- ④援助者もしくは被援助者の好ましい人格特徴および援助者の良き感情状態：被援助者が、例えば、好感の持てる外観をしているといった好ましい人格特徴を持っている。あるいは、援助者が、例えば、思いやりのある愛他的な人であったり、良い気分や感情の状態にある。
- ⑤非援助出費や援助報酬の予想：例えば、援助する責任が自分にあると判断したり、援助すべきだと他者が自分に対して期待していると思う。それにもかかわらずもし援助しないと、非難や不承認といった非援助出費が自分にもたらされることが予想される。あるいは、逆に、もし援助すれば、賞賛や承認といった報酬が自分にもたらされることが被援助者からの返礼が期待できる。
- ⑥援助者と被援助者の近い関係：援助によって援助者と被援助者の間に親密な人間関係が成立すると期待できる。あるいは、両者の間に既に友人や知人といった親密な関係がある。

## (2)向社会的行動の抑制要因の解明

高木修 (1987b) は、以上の 促進要因の 解明研究と 平行して、向社会的行動の 生起を抑制する 要因 (動機, 原因, 理由) とその 構造も、同様の 手続きで、明らかにしている。すなわち、研究の 第 1 段階として、高木修 (1982) の 究明した 7 種類の 向社会的行動群の それぞれを 代表するものとして 合計 12 種類の 行動が 選定され (表 3)、それらの 行動の 生起を抑制すると思われる 要因が 次のような 手続きによって 収集された。例えば、「赤ちゃんを抱いた人 (Y) が電車に乗ってきたのに、X は自分の 席をその人に 譲りませんでした。なぜ X は Y に自分の 席を譲らなかったのでしょうか。その 非援助の 動機, 原因, 理由になったと 考えられるものを 思いつくだけ多く、自由に 記して下さい。」と 被調査者 (36 名の 男女大学生) に 求めた。このような 質問が 他の 11 種類の 行動に関しても 行われた。そして、その 結果、12 の 全行動に関して、193 種類、延べ 961 個の 動機, 原因, 理由が 得られた。つぎに、第 2 段階として、その 内容に基づき それらを 繰り返し 整理し、最終的に 26 種類の 代表的な 抑制要因 (動機, 原因, 理由) が まとめられた (表 5)。さらに、

表5 非援助動機の型構造 (回転後因子負荷行列)

非援助動機型の番号	非援助動機の番号	非援助動機	非援助動機型					
			I	II	III	IV	V	H
1	6	自業自得であり, 自分には関係ないと思ったので	.722	.155	.032	.003	.200	.587
	13	報酬や返礼が期待できなかった	.701	.155	.155	-.057	.024	.544
	12	自分の難儀は自分で切り抜けるべきだと思ったので	.695	.157	.110	-.024	.206	.562
	7	他者がどのように思うか気にならなかった	.631	.204	.039	.142	.068	.466
	8	援助しないためにこうむる出費が小さかった	.601	.174	.074	.168	.061	.429
	25	援助する義務が自分にはないと思った	.579	.152	.198	.123	.392	.567
	9	Yが自分の知らない人だから	.570	.159	.151	.418	.012	.548
	15	関わりたくなかった	.513	.188	.255	.248	.073	.430
	18	面倒だったので	.458	.361	.315	.323	-.144	.564
	10	援助が必要だと思わなかった	.407	.244	.224	.073	.333	.392
2	2	目立つのが恥ずかしかった	.151	.787	-.015	.139	-.059	.665
	3	今までに援助を求めて拒否されたことがあった	.160	.599	.165	.026	.246	.473
	5	誰一人として援助しようとしなかった	.341	.596	-.056	.137	.040	.496
	26	おせっかいと思われなくなかった	.310	.543	.165	.152	.161	.468
	17	今までに援助に失敗して嫌な気持ちになったことがあった	.116	.535	.251	.017	.437	.554
	19	今までに援助したことがなかった	.222	.527	.123	.180	-.019	.375
	1	その時の気分が悪かった	.104	.525	.210	.107	.096	.351
3	22	Yが嫌いな人だから	.134	.207	.780	.178	.228	.753
	20	Yが好ましくない特徴を持っている	.144	.248	.737	.179	.224	.708
	14	Xが思いやりのない, 利己的な人だから	.184	.034	.697	.042	-.014	.523
4	23	他の人が援助していた	-.078	.037	.165	.751	.182	.632
	11	自分以外にも何人かそこにいた	.343	.236	.017	.691	.042	.653
	4	Yから遠く離れていた	.073	.414	.089	.558	.148	.518
	21	直接援助を要請されなかった	.364	.216	.333	.473	.046	.517
5	16	援助する能力や資格が自分にはない	.154	.136	.005	.065	.763	.629
	24	援助に必要な出費が大きかった	.198	.009	.227	.237	.604	.512
EIGEN VALUE			8.330	1.725	1.513	1.276	1.070	13.914
PCT OF VAR			32.0	6.6	5.8	4.9	4.1	53.5

第3段階として、この26種類の要因が、12種類の向社会的行動のそれぞれにおいて、どの程度その生起を抑制する動機、原因、理由になると考えるかを、「非常になる」(5点)から「全くならない」(1点)までの5段階で評定するように、別の105名の男女大学生に求めた。そして、そのようにして得られた評定値のデータに主成分分析法を適用し、その解をバリマックス回転して、以下のような5種類の抑制要因が解明された(表5)。この抑制要因とは、そのような特徴がその状況に存在する場合、向社会的行動が起り難いことを意味していると考えればよい。

- ①行動抑制的状況判断および非援助出費や援助報酬の非予想：援助を求める原因がその人自身にあり、自分自身で切り抜けるべきであり、他人がわざわざ関わって助ける必要はないと判断される。自分の知人なら多少違うが、全く知らないそのような人を助けても得るものはなく、逆に、助けなくとも、他の人は何もいわないだろうと予想される。
- ②援助または被援助の好ましくない過去経験：今までに他者を援助したり、他者から援助されたりしたことがなく、援助に関連した好ましい経験がほとんどない。あるといえば、それは、例えば、誰一人援助していないときに、自分だけがそれをして、目立って恥しい思いをしたといった嫌な思い出であり、それゆえに自分には他者を助けようという考えがない。
- ③援助者もしくは被援助者の好ましくない人格特徴：被援助者が身体的外観や人格特性などの点で好ましくない人格特徴を持っており、その人に好感が持てず、その人が嫌いである。あるいは、潜在的援助者が困っている他者のことを思いやることのできない利己的な人物であり、他者を援助する考えがない。
- ④責任の分散可能性：援助できる人が自分以外にも何人かそこにいることが分かっているし、また、彼らに較べて自分は援助の必要な人から一層遠く離れている。あるいは、誰かが既にその人を援助していたので、自分の援助はもはや必要でないと考える。
- ⑤援助能力の欠如：援助する能力や資格が自分にはないと考える。あるいは、能力や資格はなくてもないが、援助するために犠牲にすること(出費)がそれらに較べて、あまりにも大き過ぎると予想されるので、援助しない方が得だと考える。

### (3)向社会的行動の促進要因と抑制要因の関連性の解明

以上の(1)、(2)のように、抑制要因の構造は、促進要因のそれよりもかなり入り組んでいる。そもそも、援助を促進する動機、原因、理由と援助を抑制するそれらとは、字義的には、逆の関係にあると考えられ易く、因子分析を別個に行うと、同じ要因構造が得られると予想されるが、以上の要因の比較検討から判断しても、構造は同じでなく、それらがかなり複雑な関係にあると推察できる。

高木修・竹村和久(1984)は、促進要因と抑制要因の間の関連性の究明を試みている。高木らは、191名の男女大学生に対して、高木(1982)が解明した7つの向社会的行動群を代表する12種類の行動(表6)の各々において、(1)の研究で用いた25種類の要因と(2)の研究で用いた26種類の要因が、どの程度その行動の生起、あるいは、非生起の動機、原因、理由になると思うかを、



表 6 援助と非援助の動機の関連分析で用いられた12種類の向社会的行動

No.	クラスター名	研究で用いられた向社会的行動
1	寄付・奉仕行動	困っている人のためにボランティア活動に参加する
2	分与行動	困っている人に自分の持物を分け与える
3	緊急事態における救助行動	乱暴されている人がいたので、その人を助けるために警察へ通報する
4	努力を必要とする援助行動	自動車が故障して困っている人がいたので、その人を手助けする
5	迷子・遺失者に対する援助行動	迷子がいたので、その子を交番に連れていく
6	社会的弱者に対する援助行動	電車の中に重そうな荷物を持っている人がいたので、その人のためにその荷物を網棚にのせてあげる 子供が自転車でころんだので、その子を助けおこす 身体の不自由な人が困っていたので、その人のために援助の手をさしよる
7	小さな親切行動	カメラのシャッター押しをたのんでくる人がいたので、シャッターを押してあげる 雨の日、カサを持ってなくて困っている人がいたので、その人にカサをさしかけてあげる 小銭がなくて困っている人がいたので、両替をしてあげる 自動販売機の使い方がわからなくて困っている人がいたので、その人に自動販売機の使い方を教えてあげる

「非常になる」（5点）から「全くならない」（1点）までの5段階で評定することを求めた。そして、その評定値をもとに、要因間の相関係数を算出し、この値の検討に加えて、因子分析法、グループ主軸法、正準相関分析などの多変量分析法を用いて、促進要因と抑制要因との間の関連性を検討した。因子分析の結果（表7）、逆の関係、すなわち、例えば、その動機があれば援助行動が促進されるが、もしなければ抑制されるといった一次従属の関係にある要因（「援助能力・資格の有無」と「援助・被援助経験の有無」）もあるが、多くの要因は、互いに一次独立の関係にあり、すなわち、援助行動の促進にのみ、あるいは、抑制にのみ関与することが明らかとなった。つまり、字義的には逆の関係で対応していると思われる促進要因と抑制要因とが、必ずしも対応していない方が多いというのである。このことは、研究者が、向社会的行動の生起過程を研究する際、促進要因と抑制要因とをともに検討しなければならないことを示唆している。すなわち、もし両要因が一次従属、つまり逆の関係にあるのなら、どちらか一方を検討すればいいのだが、多くの場合に一次独立の関係にあるため、両者を吟味しなければならないというのである。なお、この研究結果の詳細は、高木ら（1984）を参照されたい。

表7 援助動機と非援助動機の関連構造（回転後因子負荷行列）

援助動機	F I	F II	F III	F IV	F V	F VI	F VII	F VIII	F IX	F X	F XI	F XII	F XIII	H
報酬や返礼が期待できたから	.060	-.166	.138	.084	-.176	.098	.110	.409	.064	.029	-.025	-.022	-.261	.296
無意識に	.028	.128	-.127	-.178	-.132	.080	.057	.128	-.173	-.025	.132	.122	-.105	.170
その時気分が良かったので	-.080	-.212	.130	-.127	-.534	.112	.215	.101	.026	-.050	.111	-.013	-.028	.359
今までの援助に成功して良い気持ちになったことがあったから	.047	.105	.013	.019	-.594	-.039	-.166	-.002	.007	.007	-.324	.094	-.184	.493
援助が必要だと思ったので	.014	.586	-.065	-.162	-.020	.012	.005	-.032	.008	.022	-.043	.002	-.056	.356
援助を求め原因がむしろ自分にあり、援助の責任を感じたので	-.120	.257	.079	.007	.214	.020	.144	.439	.187	.048	-.118	.245	-.014	.357
他の人が援助していたので	.275	.142	.015	.106	-.068	-.039	-.082	.259	.180	.030	.049	.252	.112	.291
今までの援助したことがあったので	.161	.034	-.028	-.144	-.316	-.110	-.201	-.039	.211	.104	-.228	.235	.063	.377
気の毒に思ったので	.073	.607	.088	-.139	-.032	.008	.050	-.056	-.023	.003	.014	-.058	.025	.358
自分の他に誰もそこになかったので	.026	.179	.020	-.697	.049	-.016	-.051	.044	-.049	-.030	.065	.015	-.038	.431
援助する義務が自分にあると思ったので	-.029	.521	-.113	-.067	.008	.019	-.047	.236	.075	-.006	-.020	.115	-.036	.376
援助しないためにこりむるコストが大きかったので	.008	-.043	.023	.004	.051	-.060	-.031	.667	.017	-.013	-.066	-.027	.040	.309
(Xが)思いやりのある愛他的な人だから	-.040	.228	.184	.041	-.239	-.137	.016	.008	.032	-.141	-.059	-.133	.040	.246
直接援助を要請されたので	-.042	-.028	.211	-.344	.028	-.109	.128	-.020	.139	-.031	.017	-.042	.025	.218
何か良いことをしてみたかったから	.035	.175	.028	.110	-.613	.041	-.004	.107	.045	-.001	-.047	.012	.024	.430
他者の目が気になったので	.140	.081	.080	-.024	-.190	-.012	.021	.450	-.103	.047	.004	-.039	.020	.273
援助に必要なコストが小さかったので	-.179	-.204	.037	.214	-.172	.068	.023	.328	.047	-.007	-.042	-.126	.123	.237
援助する能力や資力が自分にあると思ったから	-.118	.124	-.013	-.170	-.143	.034	-.032	.092	.423	-.002	.059	.146	.075	.293
誰一人として援助しようとしなかったので	-.055	.371	.016	-.450	.035	.041	-.049	.036	.008	.035	-.032	.008	.025	.362
今までの援助されたことがあったから	-.083	.147	.165	-.118	-.239	.048	-.172	-.086	.004	.045	-.321	.128	-.024	.293
(Yの)近くにいたので	.026	.090	.047	-.572	-.046	-.028	.010	-.270	-.010	.050	-.023	.031	-.015	.340
(Yが)好ましい特徴を持っていたので	-.017	-.003	.620	.013	.153	.086	-.087	.049	-.098	-.085	-.020	.036	-.068	.497
(Yが)好きな人だったから	.005	.027	.887	.092	.032	.032	-.001	.037	-.034	.064	.014	.005	-.043	.563
(Yが)自分の知っている人だったから	.089	-.054	.577	-.167	.102	-.012	.063	.032	.058	-.037	.039	.009	.080	.354
お互いに助け合わねばならないと思ったので	-.013	.379	.021	-.062	-.226	-.025	-.085	-.056	.071	-.038	-.021	.139	.231	.305

(表7のつづき)

非 援 助 動 機	F I	F II	F III	F IV	F V	F VI	F VII	F VIII	F IX	F X	F XI	F XII	F XIII	H
その時の気分が悪かったので	.012	-.149	-.104	.016	-.128	.001	.249	.037	.163	-.162	-.131	.015	.037	.215
目立つのが恥ずかしかったので	.529	.054	.039	.009	-.087	.053	.261	.033	-.060	.003	-.092	.007	.152	.368
今までに援助を求めて拒否されたことがあったから	.079	-.022	-.014	.056	.054	.065	.074	.086	-.074	-.047	-.631	-.019	.048	.376
(Yから) 遠く離れていたから	.178	-.042	-.005	-.140	-.041	.013	.400	-.025	-.018	-.091	-.153	-.101	-.042	.309
誰一人として援助しようとしなかったから	.622	.028	.007	.048	.064	.024	.084	.084	.011	-.033	-.052	-.004	-.017	.375
自業自得であり、自分に関係ないと思ったので	.064	-.002	.062	-.035	.061	.653	.134	.031	-.023	-.108	.002	-.037	.032	.433
他者がどのように思うか気にならなかったから	.144	-.036	-.054	-.016	-.012	.228	.008	.064	-.095	-.003	-.172	.185	.264	.269
援助しないためにこうむるコストが小さかったから	.127	-.028	-.056	-.015	.010	.209	.165	.086	.400	-.055	-.128	.383	.250	.369
(Yが) 自分の知らない人だったから	.484	-.106	.108	-.049	.009	.158	-.024	-.094	.002	-.147	-.066	-.010	.022	.408
援助が必要だと思わなかったから	-.086	.092	-.019	.065	-.031	.497	.286	-.050	.082	.011	-.070	.034	-.101	.278
自分以外にも誰かそこにいたので	.465	-.024	-.069	-.226	.054	.013	.035	.029	-.011	-.085	-.055	.184	-.148	.373
自分の難儀は自分で切り抜けるべきだと思ったので	-.044	-.001	.028	.027	.010	.717	-.003	-.016	.018	-.011	-.028	.007	.056	.408
報酬や返礼が期待できなかったから	.144	-.181	-.016	.025	-.015	.332	-.300	.126	.070	-.106	-.093	-.060	.006	.366
(Xが) 思いやりのない利己的な人だから	-.050	.157	.033	.020	-.022	-.164	.024	-.010	.054	-.487	-.043	-.082	-.018	.270
関わりたくなかったから	.395	.200	-.028	.003	.042	.093	-.092	.053	.087	-.182	.046	-.309	-.081	.454
援助する能力や資格が自分にならないと思ったから	.066	-.029	-.011	.096	.017	.101	.043	-.011	.586	.019	.020	-.068	-.034	.260
今までに援助に失敗していやな気持ちになったことがあったから	.023	.005	-.036	.023	.012	.012	.072	.073	.033	-.140	-.615	.009	-.036	.400
面倒だったから	.214	-.012	-.083	-.108	-.180	.136	-.029	-.088	.088	-.174	.021	-.431	-.100	.455
今までに援助したことがなかったから	.456	-.038	-.063	-.004	.014	-.012	-.124	-.034	.330	.019	-.169	-.003	-.012	.365
(Yが) 好ましくない特徴を持っていたので	.047	-.074	.057	.005	.042	.109	.047	-.032	-.064	-.798	-.003	.104	-.009	.578
直接援助を要請されなかったから	.239	-.151	.037	-.065	-.091	.140	.130	.156	.125	-.074	-.088	-.102	-.049	.304
(Yが) 嫌いな人だから	-.018	-.079	.068	-.008	.035	.094	-.012	-.001	-.075	-.873	-.003	.109	.037	.601
他の人が援助していたので	.023	.016	-.009	-.247	.027	-.028	.200	-.059	-.002	-.043	-.229	-.184	-.228	.250
援助に必要なコストが大きかったから	-.044	.171	-.013	.206	.113	.145	.021	.149	.236	-.131	-.111	-.306	.033	.303
援助する義務が自分にならないと思ったので	.178	.066	-.018	.037	-.093	.483	-.013	-.083	.136	-.091	.035	-.095	-.043	.397
おせっかいと思われたくなかったから	.338	.069	-.007	-.006	-.115	.206	.299	-.027	-.114	-.022	-.147	.001	.054	.360
固 有 値 (EIGEN VALUE)	6.921	4.399	2.752	2.602	1.778	1.711	1.635	1.534	1.345	1.245	1.183	1.059	1.023	29.186
寄 与 率 (PCT OF VAR)	13.6	8.6	5.4	5.1	3.5	3.4	3.2	3.0	2.6	2.4	2.3	2.1	1.9	57.2

(4)促進, 抑制要因による向社会的行動の特徴づけ

前述のように, (1), (2)の研究において, 105名の被験者は, 12種類の行動の各々の生起に関して, 25の促進要因, あるいは26の抑制要因が関わる可能性を5段階で評定することを求められた。そして, それを基に因子分析が行われ, 行動促進に関して6因子が, 行動抑制に関して5因子が抽出された。それらの因子特性から向社会的行動を特徴づけるために, 被験者毎に11個の因子得点を算出し, それを12種類の行動が選択された元の7つの向社会的行動群別にまとめた(表8, 表9)。大きな平均因子得点を持つ要因が行動の生起に強く関ることを意味するため, その観点から各行動群は, 次のように特徴づけられた。

表8 向社会的行動群の援助動機特性(因子得点の平均と標準偏差)

クラスター 番号	基本的援助 動機番号 クラスター名	1		2		3		4		5		6	
		平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
1	寄付・奉仕行動	.167	1.011	-.708	1.024	.161	.889	.148	.860	-.250	.908	-.297	1.053
2	分与行動	-.110	.986	-.210	.907	-.034	.884	.153	.808	-.127	.988	.416	.572
3	緊急事態における 救助行動	.594	.763	.526	.916	-.306	1.173	-.951	1.074	-.010	1.056	-.053	1.124
4	努力を必要とする 援助行動	-.113	1.004	-.356	.994	.121	.908	-.007	.837	-.004	.960	.532	.590
5	迷い子・遺失者に 対する援助行動	-.327	1.069	-.368	.855	.388	1.021	-.032	.847	.713	.945	-.415	1.128
6	社会的弱者に 対する援助行動	-.074	.917	.352	.853	-.036	.969	.369	.908	.015	.928	-.043	.967
7	小さな親切行動	-.374	1.003	.121	.802	-.040	.961	.192	.822	-.054	1.036	.148	.920

表9 向社会的行動群の非援助動機特性(因子得点の平均と標準偏差)

クラスター 番号	基本的非援助 動機番号 クラスター名	1		2		3		4		5	
		平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差	平均	標準 偏差
1	寄付・奉仕行動	.167	.712	.416	.521	-.087	.733	-.528	.670	.153	.642
2	分与行動	.342	1.116	-.211	.820	.190	.906	.401	.562	.551	.975
3	緊急事態における 救助行動	-.321	.574	-.696	.586	-.601	.612	-.114	1.065	-.265	.560
4	努力を必要とする 援助行動	.245	.861	-.191	.727	.367	.827	.400	.631	.277	.815
5	迷い子・遺失者に 対する援助行動	.370	1.083	-.517	.827	.011	1.019	-.701	.971	-.408	.785
6	社会的弱者に 対する援助行動	-.212	.798	.611	.472	.162	.721	.141	.474	-.117	.670
7	小さな親切行動	-.008	.760	-.173	.527	.161	.828	.380	.530	.076	.929

①寄付・奉仕行動群

この群の行動の生起には、どちらかと言えば、促進的な状況判断、援助または被援助の好ましい過去経験、そして、援助者もしくは被援助者の好ましい人格特徴と援助者の良き感情状態などが幾分関与している程度である。他方、非生起には、援助または被援助の好ましくない過去経験が強く関与し、抑制的状況判断と援助能力の欠如もいくらか関与している。したがって、この群の行動の場合、過去の援助経験の善し悪しと状況判断の方向性が行動を分ける重要なポイントのようである。

②分与行動群

この群の行動の生起には、援助者と被援助者との近い関係が強く関与しており、援助者もしくは被援助者の好ましい人格特徴と援助者の良き感情状態も少しは関係している。他方、非生起には、援助能力の欠如、責任の分散可能性、抑制的状況判断と非援助出費や援助報酬の非予想がかなり関わっている。規範が行動の実行をあまり強く指示していないことに加えてかなりの出費を覚悟しなければならないこの群の行動の場合、援助者と被援助者との間に近い関係が存在するか、援助する能力が自分にあり、しかも援助責任を回避できないか、さらに援助を求める理由が社会的に認められ、しないと嫌な結果をもたらされて困り、するとよい結果が期待されると判断するかがポイントのようである。

③緊急事態における救助行動

この群の行動の生起には、促進的な状況判断と責任の分散不可能性が強く関与している。つまり、他者も自分自身もその実行を自己に強く求め、この責任を回避できないので、実行するのである。他方、非生起には、抑制要因の研究で得られたいかなる動機、原因、理由も関わっていない。規範が強くその実行を指示するこの群の行動を実行しないのは、よほどの理由があるのだろうか、それが何かはこの研究だけでは分からない。

④努力を必要とする援助行動群

この群の行動の生起には、援助者と被援助者との間の近い関係が強く関わっている。つまり、例えば、知人、友人といった関係の人々の間で生起しやすいのである。他方、非生起には、援助または被援助の好ましくない過去経験以外の全ての要因が関わっており、規範の指示の弱いこの群の行動の場合、多くの理由によって行動が抑制されるようである。

⑤迷い子や遺失者に対する援助行動群

この群の行動の生起には、非援助出費や援助報酬の予想が非常に強く関与しており、援助者もしくは被援助者の好ましい人格特徴および援助者の良き感情状態もいくらか関わっている。つまり、例えば、遺失物を届けないと、社会的非難が及んでくるし、届けると、いくらかの報酬が期待できるのである。届けるかどうかは、援助者の人格特徴やそのときの感情状態に左右されるというのである。他方、非生起には、抑制的状況判断および非援助出費や援助報酬の非予想とが関係している。例えば、遺失の理由が認められないで、しかも届けなく

ても非難を恐れる必要がなかったり、届けても何の報酬も期待できないときに、この行動は生起しないのである。出費と報酬の期待が行動を分ける重要なポイントのようである。

#### ⑥社会的弱者に対する援助行動群

この群の行動の生起には、援助者もしくは被援助者の好ましい人格特徴および援助者の良き感情状態と、責任の分散不可能性が関与している。例えば、被援助者が感じのよい人であったり、援助者が愛他的な人であると、また、自分以外にその場に誰もいないとかその人の近くに自分がいるために援助責任が回避できないときに、援助するのである。他方、非生起には、援助または被援助の好ましくない過去経験が強く影響している。つまり、目立つのが嫌だとか、援助に失敗して以前のように恥しい思いをしたくないために、あるいは、このような状況で自分自身は援助されたことがないので、援助しないというのである。

#### ⑦小さな親切行動群

この群の行動の生起には、強く関与する動機、原因、理由はなく、どちらかと言うと、援助者もしくは被援助者の好ましい人格特徴および援助者の良き感情状態が関わっているようである。規範がその実行を強く指示していないため、行動の生起は、援助者の一次的あるいは持続的な特性や、被援助者の特性に依存しているのであろう。他方、非生起には、責任の分散可能性がかなり関係している。自分以外に誰かがその場にいるとか、誰かが既に助けているとか、他の人に較べて自分はその場から遠く離れているときに、援助しないで済まそうとするのである。

### (5)促進（抑制）要因に基づく向社会的行動の生起（非生起）パターンの究明

向社会的行動の生起は、以上の(1)の高木修（1983）で究明された6つの促進要因が、あるいは、その非生起は、(2)の高木修（1987b）で究明された5つの抑制要因が複雑に相互作用して決定されると考えられる。したがって、生起、あるいは非生起を決定する際の要因間の相互作用には、いくつかのパターンが存在すると予想される。高木は、各々の研究（1983, 1987b）において、そのパターンの究明を、向社会的行動群毎にクラスター分析を行うことによって試みている。紙数の都合で、ここではそれらに触れることができないので、各研究を参照されたい。

## 2) 米国における向社会的行動を規定する要因の研究

### (1) 日本と比較する研究対象国

研究結果に関して日本と比較する国として、この研究では、アメリカ合衆国が選ばれた。そして、データ収集の便宜から、アメリカ南東部に位置するノースカロライナ州立大学チャペルヒル校（UNC: University of North Carolina at Chapel Hill）の学部学生を対象者にして、研究が行われた。これは、筆者が当時同校において在外研究中であった上に、同校が開発した新しいデータ収集施設「キャプス」（CAPS: Computer Administered Panel Survey）を利用すれば、一連の研究のデータが同一対象者から容易に収集できるからであった。

## (2) UNC チャペルヒル校の特徴

チャペルヒル校は、UNC を構成する16校中の1つであり、その中心校として1795年に設立されたアメリカ最古の州立大学である。この研究が行われた当時（1987年から1988年）、この大学は、人文学系の6学部と健康・衛生学系の5学部から成る総合大学であり、教授陣、学生の質、カリキュラム、および諸施設・設備などの点から、全国の大学の中でも非常に高く評価されていた。学生の構成は、ノースカロライナ州出身の22,781人、他の州出身の50人、そして、外国人の71人であった。この内、67%は学部学生、26%は大学院生、そして7%は専門職養成コースの学生であった。女性が男性よりもやや多く、その比率は、57%対43%となっていた。

## (3) 「キャップス」(CAPS) と呼ばれる実験的なデータ収集施設

CAPS は、UNC の付属機関である「社会科学研究所」(IRSS: The Institute for Research in Social Science) が1983年から1984年にかけて開発した研究施設である。この CAPS は、研究者の手持ちデータの保存と分析の可能性とを補って完全なものにするために、調査実施のコンピュータ化と縦断的調査の利点を兼備している。この大規模なデータ収集施設を利用すれば、研究者は、回答者を獲得する、面接を実施する、資料を保存するといったことに、お金や努力をあまり注ぐことなく、それらを効率よく行うことができる。

学部学生の母集団を代表する95名（1987年度）のサンプルは、週に1時間半、学期中の20週の間、コンピュータの端末に提示される質問に回答したり、実験課題を完成したりすることを求められる。彼らは、1つのセッションが終わる度に、4\$ の基準賃金と、平均2\$ の報償金の支払いを受け、そして、学期の終わりにはかなりの額のボーナスを受け取る。なお、各サンプルには被験者のID番号が与えられ、性別、人種、学年、グループ名、誕生日などについての情報がいつも彼らの反応に付け加えられる。

研究者が調査を実施するのに参考になるだろうと、施設のスタッフは、400を越える研究のプログラムモジュールを用意している。したがって、このシステムを利用すれば、研究者は、非常に容易にデータを収集することができる。彼らが調査のためにしなければならないことは、回答者に提示することの内容と回答者から得る反応の内容とについて詳しい情報をスタッフに提供することだけである。

CAPS は、種々の学問領域の研究者によって利用されてきた。CAPS は、また、同一のサンプルから得られた異なるタイプのデータを、コンピュータを用いて統合することを可能にする。IRSS は、機関誌として「社会科学」(Social Science) を出版しており、今までに収集された種々のタイプのデータをリストにして掲載している。したがって、研究者は、自分が行おうとしているデータ収集のモデルをそこに求めて、それを参考にすることができる。

CAPS では、全てのデータがSASデータ・ファイルに変換されて研究所のデータ・ライブラリーに保存されるので、自分のデータを再分析したり、一層詳細な分析を加えたり、自分や他者の実験を追試したり、媒介変数を変えて発展的追試をしたりすることが容易である。個人につい

ての多量の、そして多様なデータは、種々の二次的な分析のための貴重な資料源となっている。

しかし、CAPS にも限界がある。すなわち、これは、UNC の学部学生以外の母集団を代表するサンプルの提供を意図していない。しかし、もしどうしても必要ならば、それを、容易に他の集団にまで拡大することができる。CAPS のサンプルから得られた結論は、他のサンプルからのそれらと幾分違うかもしれないが、どの程度相違するかは、単なる経験的な疑問でしかない。

CAPS は、学生がオンラインで行ったり、告げることのできるような、例えば、意見、知識、情緒、能力、あるいは、経験のような事柄に関する情報を収集するのに有効である。2人以上の学生の間での対面的な、リアルタイムの相互作用を要求する研究には適していないが、CAPS は、他の型のコミュニケーションや集団行動を研究するためにも使用できる。さらに、CAPS では、実験を行うことさえできる。

ところで、CAPS は、自由記述式の反応を取り扱うこともできる。すなわち、CAPS は、研究数からいうと例外的であるが、文章になっているデータの収集も容易である。そして、また、ある語の出現する頻度を数えるといったコンピュータ化された分析や、分析者のために反応文を特殊なフォーマットにプリントアウトするといったデータの呈示にも適している。したがって、この研究のように、人々が向社会的行動の生起、あるいは非生起にどのような要因が関係しているかと思っているかを明らかにする、また、向社会的行動の生起や非生起にそれらの種々の要因がどの程度関与するかを調べるのに、CAPS は、非常に便利である。

#### (4) 向社会的行動の生起を規定する促進的、および抑制的要因の収集

UNC の学部学生の母集団を代表する CAPS の96名(1988年度)のサンプルは、コンピュータの端末のスクリーン上に提示された図3および図4の質問に対して応答することを求められた。すなわち、彼らは、図3のように、スクリーン上に順番に提示される10種類の向社会的行動(表10の行動の列を参照)の各々の生起を規定したと考える促進的な「要因」(“動機、原因、理由”)

表10 行動生起の規定要因を収集するために提示した10種類の向社会的行動とサンプルが応答した行動規定要因の総個数(平均)

向社会的行動	促進要因数	抑制要因数
1. Donating money to a charity.	360( 3.8)	328( 3.4)
2. Lending money to a person who lost his purse.	332( 3.5)	314( 3.3)
3. Nursing a person who is sudden illness.	324( 3.4)	314( 3.3)
4. Helping a person who moves.	327( 3.4)	330( 3.4)
5. Handing over things lost or left behind to the owner.	326( 3.4)	316( 3.3)
6. Offering a seat to a handicapped person in a vehicle.	310( 3.2)	304( 3.2)
7. Making change for someone who has none.	282( 2.9)	295( 3.1)
8. Making way for a person on a narrow path.	300( 3.1)	282( 2.9)
9. Donating blood for a person in need.	335( 3.5)	319( 3.3)
10. Taking care of an old person.	325( 3.4)	299( 3.1)
合 計	3,221(33.6)	3,101(32.3)



---

C.  
HELPING 7-88

This unit, designed by Osamu Takagi, is designed to elicit openended responses to questions about motives for helping.

.Q  
ON EACH SCREEN you will see a situation where helping behavior occurred and will be asked to type in as many motives as you can think of for the helping. You may believe that some of the motives always apply and others apply depending upon the specific circumstances. We want you to list both kinds of helping motives.

.Q  
Please list as many MOTIVES for helping as you can think of. These can be motives you believe in or motives you have heard expressed by others. The motives do not necessarily have to reflect your own philosophy about helping.

LIST ONE PER LINE. YOU HAVE 5 LINES TO ANSWER. PRESS END WHEN FINISHED.

.Q  
X asked Y to donate money to a charity. Y donated money.

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

.Q  
X lost a wallet or a purse. Y lent money to X.

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

.Q  
X experienced a sudden illness or injury. Y nursed X.

X asked Y to help X move. Y helped X move.

Y found something lost by X. Y returned it to X.

X was old or handicapped. Y offered a seat to X on a bus.

X asked Y to change for a dollar. Y gave X change.

Y met with X on a narrow path. Y moved out of X's way.

X asked Y to donate blood for X. Y donated blood for X.

X was an old person who needed some care. Y took care of X.

---

図3 向社会的行動の生起を促進する要因を収集するための CAPS のステートメント

C.

HELPING 8-88

This unit, designed by Osamu Takagi, is designed to elicit openended responses to questions about motives for not helping.

.Q

ON EACH SCREEN you will see a situation where helping behavior failed to occur and will be asked to type in as many motives as you can think of for the not helping. You may believe that some of the motives always apply and others apply depending upon the specific circumstances. We want you to list both kinds of not helping motives.

.Q

Please list as many MOTIVES for not helping as you can think of. These can be motives you believe in or motives you have heard expressed by others. The motives do not necessarily have to reflect your own philosophy about not helping.

LIST ONE PER LINE. YOU HAVE 5 LINES TO ANSWER. PRESS END WHEN FINISHED.

.Q

X asked Y to donate money to a charity. Y didn't donate money.

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

.Q

X lost a wallet or a purse. Y didn't lend money to X.

- 1.
- 2.
- 3.
- 4.
- 5.

.Q

X experienced a sudden illness or injury. Y didn't nurse X.

X asked Y to help X move. Y didn't help X move.

Y found something lost by X. Y didn't return it to X.

X was old or handicapped. Y didn't offer a seat to X on a bus.

X asked Y to change for adollar. Y didn't give X change.

Y met with X on a narrow path. Y didn't move out of X's way.

X asked Y to donate blood for X. Y didn't donate blood for X.

X was an old person who needed some care. Y didn't take care of X.

図4 向社会的行動の生起を抑制する要因を収集するための CAPS のステートメント

を、また、図4のように、各々の行動の非生起を規定したと考える抑制的な「要因」を、それぞれ5個以内でリストアップすることを求められたのである。なお、彼らは、それらの要因が、自分自身の考えによるものだけでなく、他の人ならこう考えるだろうと想像したものであってもよいし、さらに、それらが必ずしも自分自身のフィロソフィを反映していなくてもよいと教示された。

この結果、表10のように、彼らは、10種類の向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由として、合計3,221個（一人平均33.6個、一行動当たり3.4個）、他方、行動生起を抑制するものとして、合計3,101個（一人平均32.3個、一行動当たり3.2個）をリスト・アップした。この結果のようにかなりの応答数があったことは、CAPSのサンプルたちが、真剣に要因の想起に努めたことを暗示している。なお、表10に示されている通り、行動の種類による、また、促進か抑制かの規定の方向による、さらには、要因想起の順序による応答数の差は小さかった。このことは、少なくとも数量に限れば、要因の想起にそれらがあまり影響しないことを示唆している。

#### (5) 応答された促進的要因と抑制的要因の行動毎の整理

以後計画されている向社会的行動の規定要因の構造化研究などに使用できるようにと、応答されたこれらの「要因」（動機、原因、理由）の内容分析が繰り返され、それらを一行動につき50個程度の代表的な動機、原因、理由にまで整理することが試みられた。なお、内容分析の過程で、パーソナル・コンピュータが活用された。すなわち、ホスト・コンピュータに自動的に記録されている96名のサンプルの応答は、パーソナル・コンピュータで処理できるように変形・変換され、データ・フロッピーにコピーされて、その後パーソナル・コンピュータで分類、処理されたのである。

10種類の向社会的行動の各々に関して応答された動機、原因、理由について、意味が相互に似ていると思われるもの同士を集めてまとめ上げるという手続きによる内容分析を数回行い、表11～表20に示されているように促進的要因が、表21～表30に示されているように抑制的要因が、各々の行動に関して50個前後にまとめられた。さらに、それらは、その内容の類似性から20個前後の要因カテゴリーに分類された。なお、それらの表に示されているように、行動の種類と規定の方向により、出現する要因カテゴリーはいくぶん異なっている。

ところで、この分類整理の過程で、サンプルが誤解していると思われるもの、内容があまりにも個人的すぎて他者には理解が困難なもの、内容があまりにも通俗のすぎて表現をはばかるものなどが、その対象から除外された。したがって、各表にまとめられた要因の合計数は、表10に示されている行動毎の応答数と総応答数よりも少なくなっている。

表11から表30の各々においてまとめられた向社会的行動の生起を促進する、あるいは抑制する動機、原因、理由の特徴を行動毎に考察することは、何かこの論文の紙数の関係で、ここでは行わないことにする。しかし、向社会的行動の生起を一般に促進するものは、あるいは、抑制するものは何かという検討は、10種類の行動に通じて認められる要因の整理で得られたもの（表31、表32）に基づいて、次項の(6)で行うことにする。なお、一般的な規定要因ではなく、特定の向社

表11 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（慈善への寄付の場合）

援助者の援助促進的人格特徴	
Y is a nice person.	9
Y is generous.	9
Y is a charitable person.	7
Y is kind.	6
Y is not stingy.	2
Y is a caring person.	1
Y is thoughtful.	1
援助要請者の援助促進的人格特徴	
X is gorgeous.	1
援助者と援助要請者の間の援助促進的關係	
Y is a relative of X.	23
Y is a friend of X.	18
Y knows X enough well.	9
援助者の援助能力や資格の存在	
Y has extra money.	26
Y is rich.	9
慈善に対する援助者の積極的態度	
Y likes the charity.	36
Y feels the charity is a worthy cause.	33
Y knows someone will benefit.	8
Y has a plan to donate money to a charity.	2
Y feels it is the right things to do.	2
Y feels it is part of tithing.	1
援助に対する援助者の積極的態度	
Y likes to help others.	2
Y wants to help humanity.	1
Y is a member of Greenpeace.	1
援助要請者に対する援助者の思いやりの存在	
Y wants to help X.	9
Y wants to get rid of X.	6
Y has compassion or sympathies with X.	4
Y wants to make X happy.	2
Y cares for X.	2
Y cares about X.	1
Y feels sorry for X.	1
被援助者に対する援助者の好意的態度	
Y loves X.	2
Y likes X.	2
援助者の状況の援助促進的特徴	
Y is in a good mood/feeling.	6
Y doesn't have anything else to do.	1
援助報酬の期待	
Y needs tax wright-off/free.	35
Y wants to impress X.	10
Y wants to feel good about himself.	8

米国における向社会的行動の分類学的研究（高木）

Y expects something in return.	5
Y wants X or others to see how kind Y is.	4
Y wants to be recognized.	3
Y doesn't want to appear stingy.	1
Y is trying to score with X.	1
Y wants to be a good citizen.	1
Y feels it's a way of making up for a past or present wrong.	1
非援助出費の予想	
Y would feel guilty if no helping given.	10
Y is afraid of what would happen if he refuse.	1
援助への圧力や義務感の存在	
Y feels pressured.	9
Y feels obligated.	5
Y's mother had always told him to give.	1
Y may not be able to say no.	1
過去の援助への返報	
Y owes X a favor.	7
Y wants to reciprocate.	3
将来の援助への期待	
Y is going to ask X to donate in the future.	1
罪障感の低減の必要性	
Y is for that cause.	1
過去の援助経験の存在	
Y has faced a similar experience.	1
直接的な援助要請の存在	
X asked Y to do.	3
援助要請の好ましい仕方	
X is very persuasive.	3

表12 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（お金の貸与の場合）

援助者の援助促進的人格特徴	
Y is a nice person.	15
Y is kind.	7
Y is generous.	6
Y is considerate.	1
Y is not self-centered.	1
Y is being a good Kantian.	1
Y is being a good Christian.	1
被援助者の援助促進的人格特徴	
X has desirable traits for Y.	5
援助者と被援助者の間の援助促進的關係	
Y is a friend of X.	46
Y knows X enough well.	7
Y is a relative of X.	6
援助の必要性の認識	
Y knows that X needs it.	15

X needs the money for a good reason.	2
X's house burnt down.	1
X may be hungry.	1
援助者の援助能力や資格の存在	
Y has spare (extra) money.	13
Y is rich.	4
援助に対する援助者の積極的態度	
Y feels it is the right thing to do.	7
Y likes to help others.	1
被援助者に対する援助者の思いやりの存在	
Y feels sorry for X.	16
Y has compassion or sympathies with X.	7
Y has same experience and knows how X feels.	5
Y wants to help X.	5
Y will do anything for X.	1
Y cares for X.	1
Y cares about X.	1
被援助者に対する援助者の好意的態度	
Y trusts X to return the money.	20
Y likes X.	6
Y loves X.	2
援助者の状況の援助促進的特徴	
Y is in a good mood/feeling.	1
援助報酬の期待	
Y expects something in return.	39
Y is trying to be nice.	4
Y is a lone shark.	2
Y wants to feel good about himself.	1
Y wants to get a feeling of superiority over X.	1
Y may want to appear rich to X and others.	1
Y wants to get on X's good side.	1
Y wants to let X know he cares.	1
援助への圧力や義務感の存在	
Y feels obligated.	1
過去の援助への返報	
Y owes X a favor.	23
Y wants to reciprocate.	6
将来の援助への期待	
Y may someday need some helping as well.	12
罪障感の低減の必要性	
Y stole X's wallet and feels guilty.	8
過去の被援助経験の欠如	
Y has experience not being helped.	1

表13 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（急病人やけが人の介抱の場合）

援助者の援助促進的人格特徴		
Y is kind.		11
Y is a nice person.		9
Y is a caring person.		3
Y is a helpful person.		2
Y has a conscience or just common sense.		2
Y is considerate.		1
X has been good to others.		1
援助者と被援助者間の援助促進的關係		
Y is a friend of X.		25
Y is a relative of X.		21
Y knows X enough well.		4
Y needs Y.		2
援助の必要性の認識		
Y feels that X needs Y.		5
Y feels that it's an important or emergency.		5
援助者の援助能力や資格の存在		
Y is a nurse/doctor trained medical professional.		22
Y has the medical skill and knowledge to nurse X.		13
援助に対する援助者の積極的態度		
Y enjoys helping others.		5
Y likes to help others.		5
Y thinks that it is the right thing to do.		4
Y is a member of service club.		3
Y wants to do the same thing that anyone would do.		1
被援助者に対する援助者の思いやりの存在		
Y cares for X.		11
Y has compassion or sympathies with X.		9
Y wants to help X.		8
Y feels sorry for X.		7
Y cares about X.		5
Y needs X to help X escape out to the jungle.		1
Y only hopes for X.		1
Y does not like to see X hurting.		1
被援助者に対する援助者の好意的態度		
Y loves X.		28
Y likes X.		4
Y feels loyal to X.		1
援助者の状況の援助促進的特徴		
Y is the only one nearby.		4
Y has nothing else better to do.		3
Y has some spare time.		3
Y happens to be there.		2
No one else can help.		2
援助報酬の期待		
Y expects something in return.		12

Y expects money.	8
Y wants to feel self-worth or satisfaction from taking care of X.	3
Y wants X or others to see how kind Y is.	2
Y needs X to remain in previous condition.	1
Y gets a feeling of superiority over X.	1
Y wants worship the Load by helping X.	1
Y is trying to get into heaven.	1
非援助出費の予想	
Y would feel guilty if no helping given.	3
援助への圧力や義務感の存在	
It is Y's job to nurse X.	15
Y feels obligated.	7
過去の援助への返報	
Y owes X a favor.	7
Y wants to reciprocate.	6
将来の援助への期待	
Y may someday need some nursing as well.	3
罪障感の低減の必要性	
Y causes the illness or injury.	6
直接的な援助要請の存在	
X asked Y to help.	3
有償の仕事としての援助	
Y is getting paid to nurse X.	10

表14 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（引越しの手伝いの場合）

援助者の援助促進的人格特徴	
Y is a nice person.	12
Y is kind.	5
Y is helpful.	4
被援助者の援助促進的人格特徴	
X is handicapped or old.	3
X looks good.	1
援助者と被援助者の間の援助促進的關係	
Y is a friend of X.	54
Y is a relative of X.	7
Y lives with X.	6
Y is a neighbor of X.	5
Y is moving with X.	4
Y knows X enough well.	4
Y told X earlier that he would help X move.	1
援助の必要性の認識	
Y knows X can't move by himself.	7
Y doesn't have anyone else to help X.	1
援助者の援助能力や資格の存在	
Y has a truck.	6
Y is available to help X move.	1
Y is strong.	1



援助に対する援助者の積極的態度	
Y likes to help others.	7
Y knows it is the right thing to do.	5
Y wants to help.	4
Y wants to do it out of the goodness of his heart.	3
Y knows it is the charity.	1
Y has religious reasons to help X.	1
被援助者に対する援助者の思いやりの存在	
Y wants to get rid of X.	20
Y cares about X.	1
Y cares for X.	1
Y feels pity.	1
被援助者に対する援助者の好意的態度	
Y likes X.	11
Y loves X.	2
X helps a lot of people when he is able to.	1
援助者の状況の援助促進的特徴	
Y has nothing better to do.	7
Y has some spare time.	1
援助報酬の期待	
Y expects something in return.	22
Y expects money.	7
Y wants to feel good.	2
Y wants X's love.	2
Y wants to be a part of X's life.	1
Y knows that people will admire his helping others.	1
Y wants to meet people.	1
Y is moving into X's old house.	1
Y needs the exercise.	1
Y is released from jail to provide labor in healthy environment.	1
Y is a nosey neighbor and wants to see X's stuff.	1
援助出費の予想の欠如	
X is not moving very far.	1
非援助出費の予想	
X threatens to expose Y.	1
援助への圧力や義務感の存在	
It is Y's job.	24
Y feels obligated.	4
Y feels pressured to help.	1
Y is unable to turn down a request from X.	1
過去の援助への返報	
Y owes X a favor.	28
将来の援助への期待	
Y may someday need same helping as well.	8
過去の援助経験の存在	
Y has helped before.	1
直接的な援助要請の存在	
X asked Y to help.	6
有償の仕事としての援助	
Y is getting paid for helping.	11

表15 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（落し物を届ける場合）

援助者の援助促進的人格特徴	
Y is honest.	22
Y is a nice person.	21
Y is being moral.	6
Y is kind.	6
Y is a caring person.	2
Y is considerate.	1
Y is charitable.	1
Y is a helpful person.	1
援助者と被援助者間の援助促進的關係	
Y is a friend of X.	20
Y knows X enough well.	8
Y is a relative of X.	3
援助の必要性の認識	
Y knows it is important to X.	16
Y knows X needs it.	4
Y don't know what else to do with it.	3
Y knows what it's like to lose something.	2
援助者の援助能力や資格の存在	
Y knows it belongs to X.	9
Y knows X missed it.	3
The lost thing will have been recognized as X's.	2
Y finds some identification.	1
援助に対する援助者の積極的態度	
Y knows it is the right thing to do.	12
Y likes to help others.	2
Y is doing unto others as he will have them do unto him.	1
Y's mommy tells him to return it.	1
被援助者に対する援助者の思いやりの存在	
Y feels sorry for X.	3
Y wants to help X.	1
Y has compassion or sympathies with X.	1
被援助者に対する援助者の好意的態度	
Y likes X.	5
援助者の状況の援助促進的特徴	
Y is in a good mood/feeling.	1
Y has some spare time.	1
援助報酬の期待	
Y expects something in return.	32
Y wants X or others to see how kind Y is.	6
Y wants to be nice.	4
Y wants to meet X.	2
非援助報酬の予想の欠如	
Y has no use for it.	34
There is no way Y can get away with keeping it.	1

米国における向社会的行動の分類学的研究（高木）

非援助出費の予想	
Y would feel guilty if no helping given.	11
Y fears of being caught with the item.	5
Y knows someone else see him find it.	4
援助への圧力や義務感の存在	
Y's conscience bothers him.	3
It is Christian sense of values.	3
Y thinks of the golden rule.	3
Y feels obligated.	2
Y feels it is his duty.	1
過去の援助への返報	
Y owes X a favor.	3
Y wants to reciprocate.	3
将来の援助への期待	
Y may someday need same helping as well.	19
過去の被援助経験の存在	
Y has lost something before and has it returned.	2

表10 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（席を譲る場合）

援助者の援助促進的人格特徴	
Y is nice.	15
Y is kind.	14
Y has good manners.	12
Y is courteous.	11
Y is respectful person.	11
Y is polite.	6
Y is thoughtful.	3
Y is generous.	3
Y is a caring person.	3
Y has a conscience.	3
Y is considerate.	1
Y is decent.	1
Y is helpful.	1
援助者と被援助者間の援助促進的關係	
Y is a relative of X.	8
Y knows X enough well.	7
Y is a friend of X.	5
援助の必要性に認識	
Y feels that X needs it.	16
No one else would get out of their seat.	1
援助者の援助能力や資格の存在	
Y is younger than X.	13
援助に対する援助者の積極的態度	
Y knows it is the right thing to do.	10
Y follows bus policy/rules of bus.	6

Y has the habit to help.	3
Y looks out for others well being.	2
Y feels of doing a good deed.	1
Y likes to help others.	1
Y didn't want to see the person got through the trouble to find a seat.	1
Y is a member of boy scout.	1
被援助者に対する援助者の思いやりの存在	
Y has compassion or sympathies with X.	15
Y feels sorry for X.	8
Y feels that if he is X.	4
Y wants to help X.	4
Y cares about X.	1
Y concerns about X.	1
被援助者に対する援助者の好意的態度	
Y likes X.	3
援助者の状況の援助促進的特徴	
Y is in a good feeling/mood.	4
Someone else has just done this prompting Y to remember his manners.	1
援助報酬の期待	
Y wants X or others to see how kind Y is.	8
Y wants to feel good about himself.	7
Y expects something in return.	2
Y expects money.	2
X will offer money to Y.	2
Y wants to make a friend.	1
Y wants to be nice.	1
Y is trying to get into heaven.	1
援助出費の予想の欠如	
Y is getting off soon.	17
Y wants to stand up/stretch.	11
There are better seats elsewhere.	5
Y knows the seat is wet or dirty.	2
It requires little effort for Y.	1
非援助出費の予想	
Y feels guilty if no helping given.	7
Y doesn't want others to see him non helping.	3
援助への圧力や義務感の存在	
Y feels obligated.	5
Y feels pressured.	3
X threatens Y if he/she doesn't move for X.	2
将来の援助への期待	
Y may someday need same helping as well.	7
直接的な援助要請の存在	
X asked Y to help.	8
無意識の援助	
Y does it instinctively.	1

表17 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（両替の場合）

援助者の援助促進的人格特徴	
Y is a nice person.	18
Y is courteous.	4
Y is kind.	4
Y is thoughtful.	3
Y is helpful.	2
被援助者の援助促進的人格特徴	
X is beautiful.	3
X is a sad looking fellow.	1
援助者と被援助者の間の援助促進的關係	
Y is a friend of X.	18
Y is a relative of X.	1
Y knows X enough well.	1
援助の必要性の認識	
Y feels that X needs it.	19
Y feels that it's an important.	2
援助者の援助能力や資格の存在	
Y has some spare change.	36
Y is rich.	1
援助に対する援助者の積極的態度	
Y knows it is the normal thing to do.	4
Y likes to help others.	2
被援助者に対する援助者の思いやりの存在	
Y wants to help X.	8
Y has compassion or sympathies with X.	2
被援助者に対する援助者の好意的態度	
Y likes X.	5
援助者の状況の援助促進的特徴	
Y is the only one nearby.	3
Y is in a good mood/feeling.	2
Y has nothing else to do.	1
援助報酬の期待	
It is benefit both of them.	56
Y expects something in return.	6
X offers Y more money.	4
Y wants to meet X.	4
援助出費の予想に欠如	
It is easy for Y.	15
Y loses nothing in the transaction.	2
非援助出費の予想	
Y would feel guilty if no helping given.	2
援助への圧力や義務感の存在	
Y thinks it is Y's job to change.	15
X threatens Y to help.	2
Y feels obligated.	1
X pesters Y to help.	1

過去の援助への返報		
Y wants to reciprocate.		7
将来の援助への期待		
Y may someday need same helping as well.		3
過去の援助経験の存在		
Y has the same experience in helping.		1
過去の被援助経験の欠如		
Y has the experience not being helped.		2
直接的な援助要請の存在		
X asked Y to help.		3
援助要請の好ましい仕方		
X is persuasive.		2
X is pleasant in his approach.		1

表18 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（道を読む場合）

援助者の援助促進的人格特徴		
Y is courteous or polite.		36
Y is a nice person.		15
Y is passive or shy.		10
Y is kind.		7
Y is considerate.		5
Y is not aggressive.		1
被援助者の援助促進的人格特徴		
X is female.		13
X is handicapped or old.		8
X looks mean.		8
援助者と被援助者の間の援助促進的關係		
Y is a friend of X.		4
Y knows X enough well.		2
援助者の援助能力や資格の存在		
X is fat or bigger than Y.		28
Y sees X first.		6
援助に対する援助者の積極的態度		
Y follows public manners.		4
Y feels like it.		2
Y always gives in.		1
被援助者に対する援助者の思いやりの存在		
Y cares about X.		1
被援助者に対する援助者の好意的態度		
Y likes X.		1
被援助者に対する援助者の非好意的態度		
Y dislikes X.		7
Y doesn't like to get close to someone he doesn't know.		1
援助者の状況の援助促進的特徴		
Y doesn't have anything better to do.		3

米国における向社会的行動の分類学的研究（高木）

Y is in a hurry.	2
Y isn't in a hurry.	2
Y feels in a good mood/feeling.	1
被援助者の状況の援助促進的特徴	
X can't move.	16
X is carrying something.	12
X is in a hurry.	5
X is there first.	3
援助報酬の期待	
Y wants to show respect for X.	10
Y wants X or others to see how kind Y is.	2
Y wants to impress X.	2
Y expects something in return.	1
援助出費の予想の欠如	
It is easier for Y to do than X.	9
非援助出費の予想	
Y wants to avoid a conflict.	28
Y would feel guilty if no helping given.	1
援助への圧力や義務感の存在	
Y is afraid of X.	14
Y feels threatened by X.	7
Y feels obligated.	1
過去の援助への返報	
Y owes X a favor.	1
直接的な援助要請の存在	
X asked Y to do.	1
無意識の援助	
Y does so instinctively.	6

表19 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（献血の場合）

援助者の援助促進的人格特徴	
Y is a nice person.	15
Y is generous.	7
Y is an altruistic person.	5
Y is kind.	4
Y is a caring person.	3
Y is considerate.	2
Y is thoughtful.	1
Y is a good dude.	1
被援助者の援助促進的人格特徴	
X is old or handicapped.	2
援助者と被援助者の間の援助促進的關係	
Y is a relative of X.	29
Y is a friend of X.	19
Y knows X enough well.	4
It is personal reason.	3

援助の必要性の認識	
Y feels that it's an important or emergency.	28
Y feels that X needs Y.	11
Y feels it useful.	1
援助者の援助能力や資格の存在	
Y has same or much blood.	28
援助に対する援助者の積極的態度	
Y knows it is the right thing to do.	5
Y likes to help others.	3
Y is sympathetic to donating blood.	3
Y enjoys helping others.	2
Y believes that all life is sacred.	1
Y has pledged to donate blood.	1
被援助者に対する援助者の思いやりの存在	
Y cares about X.	4
Y cares for X.	3
Y is responsible for X.	2
Y has compassion or sympathies with X.	1
被援助者に対する援助者の好意的態度	
Y loves X.	17
Y wants to help X.	9
Y likes X.	3
援助者の状況の援助促進的特徴	
No one else can help X.	10
Y has nothing better to do.	4
Y happens to be there.	1
Y is feeling charitable today.	1
Y knows someone who once needed blood.	1
援助報酬の期待	
Y wants to feel good about himself.	9
Y expects money.	9
Y expects something in return.	8
Y wants to feel satisfaction.	2
Y wants social acceptance.	1
Y wants X or others to see how kind Y is.	1
Y wants to show he cares.	1
Y is trying to get into heaven.	1
It is the valuable Y puts on life.	1
援助出費の予想の欠如	
It is easy for Y.	3
非援助出費の予想	
Y would feel guilty if no helping given.	4
援助への圧力や義務感の存在	
Y feels obligated.	5
Y feels pressure.	3
It is Y's duty.	3
Y is coerced in donating.	1



米国における向社会的行動の分類学的研究（高木）

過去の援助への返報		
Y owes X a favor.		10
Y wants to reciprocate.		2
将来の援助への期待		
Y may someday need same helping as well.		2
過去の援助経験の存在		
Y regularly donates blood.		5
直接的な援助要請の存在		
X asked Y to do.		3
有償の仕事としての援助		
Y is paid.		13

---

表20 向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（老人の介護の場合）

援助者の援助促進的人格特徴		
Y is a nice person.		17
Y is kind.		10
Y is a caring person.		3
Y is considerate.		2
Y is a generous person.		1
Y is courteous.		1
被援助者の援助促進的人格特徴		
X is old or handicapped.		3
X has stimulating personality.		1
援助者と被援助者の間の援助促進的關係		
Y is a relative of X.		48
Y is a friend of X.		16
Y knows X enough well.		2
Y feels loyal to X.		1
援助の必要性の認識		
Y feels that X needs Y.		9
援助者の援助能力や資格の存在		
Y is a nurse or doctor.		9
Y feels that Y can do it.		1
Y feels useful.		1
援助に対する援助者の積極的態度		
Y wants to help.		7
Y knows it is the right thing to do.		6
Y likes to be with old people.		4
Y is a member of service club.		3
Y enjoys helping others.		2
Y likes to help others.		1
Y knows it is normal thing to do.		1
Y does it out of charity.		1

被援助者に対する援助者の思いやりの存在	
Y has compassion or sympathies with X.	14
Y feels sorry for X.	10
Y cares for X.	3
Y cares about X.	3
Y does not like to see X in pain.	1
被援助者に対する援助者の好意的態度	
Y loves X.	19
Y likes X.	7
援助者の状況の援助促進的特徴	
Y has nothing better to do.	3
Y has some spare time.	2
No one else can help.	1
Y is lonely for company also.	1
援助報酬の期待	
Y expects money.	19
Y expects something in return.	6
It makes to feel good about himself.	4
Y wants X or others to see how kind Y is.	4
Y wants to be nice.	4
Y wants to feel self-worth or satisfaction.	3
Y wants to show respect for X.	2
Y can win an award.	1
Y needs companionship.	1
非援助出費の予想	
Y would feel guilty if no helping given.	7
援助への圧力や義務感の存在	
It is Y's job.	26
Y feels obligated.	13
Y doesn't have a choice.	2
Y feels a social responsibility.	1
Y feels a religious obligation.	1
過去の援助への返報	
Y wants to reciprocate.	6
Y owes X a favor.	4
将来の援助への期待	
Y may someday need same helping as well.	8
罪障感の低減の必要性	
Y had a personal experience which caused him to see the need.	1
直接的な援助要請の存在	
X asked Y to help.	5
援助要請の好ましい仕方	
Y is manipulated into feeling it is his duty.	1
有償の仕事としての援助	
Y is getting paid.	8

表21 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（慈善への寄付の場合）

援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is stingy.	17
Y is a jerk.	7
Y is selfish.	7
Y is mean.	5
Y is greedy.	3
Y isn't a charitable.	2
Y is hateful.	1
Y is apathetic.	1
援助要請者の援助抑制的人格特徴	
X is ugly.	1
援助者と援助要請者の間の援助抑制的關係	
X is an enemy of Y.	2
Y doesn't know X enough well.	1
Y is afraid of X.	1
援助者の援助能力や資格の欠如	
Y doesn't have any(enough) money.	66
Y needs money him(her)self.	11
Y is broke.	7
Y is poor.	4
Y can't afford to.	4
慈善に対する援助者の消極的態度	
Y doesn't believe that the charity is worthwhile.	30
Y doesn't like the charity.	19
Y doesn't like the form of appeal.	19
Y doesn't approve of the charity.	11
Y doesn't agree with the charity.	6
Y has religious believes against donating money.	1
援助に対する援助者の消極的態度	
Y doesn't want to help.	7
Y doesn't care about the donation.	4
Y doesn't like to help others.	1
Y's mother has always told him never to give.	1
援助要請者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y has no compassion or sympathies with X.	2
援助要請者や慈善団体に対する援助者の非好意的態度	
Y dislikes X.	12
Y hates X.	6
Y doesn't trust X.	6
Y doesn't like the organization.	3
Y doesn't believe in the organization.	1
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y has no time.	5
Y is in a bad mood/feeling.	2
Y is lack of connection to the charity.	1
Y feels that Y's own life is charity situation enough.	1

援助報酬の期待の欠如	
It is not tax deductible.	6
Y doesn't think he will get anything out of it.	3
非援助報酬の予想	
Y is trying to make a statement.	1
援助出費の予想	
Y is afraid X will buy him for money all the time if he donates.	1
過去の非援助への報復	
X didn't donate to Y's charity.	2
過去の援助経験の欠如	
Y didn't give to charities.	3
過去の援助経験の存在	
Y has already donated to that/another charity.	23
援助要請の好ましくない仕方	
X isn't persuasive.	2

表22 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（お金の貸与の場合）

援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is selfish.	6
Y is stingy.	4
Y is greedy.	4
Y is mean.	2
Y is cautious.	2
Y is tight.	2
Y is cruel.	2
Y is rude.	2
Y is not a caring person.	1
Y is not kind.	1
Y is not a nice person.	1
Y is inconsiderate.	1
Y is untrusting of others.	1
被援助者の援助抑制的人格特徴	
X has been careless.	6
X is irresponsible.	5
X looks mean.	1
援助者と被援助者の間の援助抑制的關係	
Y doesn't know X well enough.	24
Y is not a friend of X.	4
X is an enemy of Y.	3
X insults Y.	1
X already owes Y money.	1
援助の必要性の認識の欠如	
Y feels that X doesn't really need the money.	4
Y intentionally stole X's purse or wallet.	4
Y doesn't approve of the money's use.	3

米国における向社会的行動の分類学的研究（高木）

Y feels it is X's own fault.	2
Y feels that X is not deserving it.	1
Y feels each person must sow what they reap.	1
Y thinks that is X's tough luck.	1
援助者の援助能力や資格の欠如	
Y doesn't have any(enough) money.	75
Y is broke.	6
Y needs the money.	1
Y can not afford to.	1
Y only has big bills.	1
援助に対する援助者の消極的態度	
Y feels that it is wrong to lend people money.	3
Y doesn't believe in lending money to no one.	2
Y doesn't want to help.	2
被援助者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y doesn't care for X.	4
Y doesn't care about X.	2
Y doesn't feel sorry for X.	1
Y is unsympathetic toward X.	1
Y is aloof from X.	1
被援助者に対する援助者の非好意的態度	
Y doesn't trust/believe X.	39
Y dislikes X.	29
Y hates X.	4
Y wants X to suffer.	2
X is a beggar whom Y doesn't like.	2
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y is in a bad mood/feeling.	2
援助報酬の期待の欠如	
Y can't expect anything in return.	2
援助出費の予想	
Y is afraid of not getting the money back.	40
Y lent money to X before and not been repaid.	10
Y doesn't want to be taken advantage of.	1
援助への圧力や義務感の欠如	
Y feels no social or moral obligation.	1
過去の非援助への報復	
X refused to lend Y money before.	3
将来の援助への期待の欠如	
Y feels that X will not help him if he needs money.	4
過去の援助経験の欠如	
Y lent money to no one.	1
過去の被援助経験の欠如	
Y lost his wallet before and none helped him out.	1
直接的な援助要請の欠如	
X didn't ask Y to help.	3

表23 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（急病人やけが人の介抱の場合）

援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is a jerk.	4
Y is mean.	4
Y is cruel.	3
Y is selfish.	3
Y is not a caring person.	3
Y is a person who becomes so shocked by emergencies.	3
Y is apathetic.	1
Y is a unhelping person.	1
Y is a dummy.	1
被援助者の援助抑制的人格特徴	
X is mean.	1
X was not good to others before X's illness.	1
援助者と被援助者の間の援助抑制的關係	
Y doesn't know X well enough.	17
X is an enemy of Y.	2
Y is not a friend of X.	1
援助の必要性の認識の欠如	
Y feels that X doesn't need to be nursed.	6
Y doesn't know that X is sick.	6
Someone else is already caring for X.	5
X will refuse Y's help.	3
Y intentionally poisoned or injured X.	3
Y doesn't need for X to get better.	1
援助者の援助能力や資格の欠如	
Y doesn't know how to help or what to do.	40
Y is not a medical professional.	9
Y is also ill or injured.	9
Y can't afford to.	6
Y is old or handicapped.	1
援助に対する援助者の消極的態度	
Y doesn't want to help.	3
Y doesn't like the pay.	1
被援助者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y doesn't care for X.	6
Y doesn't care about X.	5
Y has no compassion or sympathies with X.	2
被援助者に対する援助者の非好意的態度	
Y dislikes X.	27
Y hates X.	15
Y wants X to be sick.	1
Y wants X to suffer.	1
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y has no time.	29
Y has better(other) things to do.	16
Y isn't nearby X.	1

米国における向社会的行動の分類学的研究（高木）

Y has a family to take care of.	1
Y must take care of himself.	1
Y is too involved in own life.	1
被援助者の状況の援助抑制的特徴	
X is injured too serious.	3
援助報酬の期待の欠如	
Y doesn't expect anything in return.	1
Y is not getting paid to nurse X.	1
Y feels as if it won't be appreciated.	1
Y feels that nursing will simply make X too dependent.	1
援助出費の予想	
Y is afraid that he would do something wrong.	18
Y doesn't want to catch X's disease.	12
Y doesn't like to look at blood.	5
Y doesn't want to be bothered.	3
Y doesn't want to make a fool of himself if the illness is a fake.	1
援助への圧力や義務感の欠如	
Y doesn't feel responsible.	1
過去の非援助への報復	
X didn't nurse when Y is sick.	6
将来の援助への期待の欠如	
X won't nurse Y if he is sick or injured.	1
直接的な援助要請の欠如	
X didn't ask Y to help.	1
代替援助の可能性	
Y donates other helping for X.	5

表24 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（引越しの手伝いの場合）

援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is lazy.	9
Y is selfish.	3
Y is mean.	2
Y is inconsiderate.	2
Y is not kind.	1
Y is foolish.	1
被援助者の援助抑制的人格特徴	
X is ugly.	4
X is a jerk.	1
X is stinker.	1
X is grouchy.	1
援助者と被援助者間の援助抑制的關係	
Y doesn't know X well enough.	17
Y isn't a friend of X.	2
X is an enemy of Y.	1
援助の必要性の認識の欠如	
Y doesn't think X needs help.	13

Y thinks that X doesn't want help from Y.	1
Y is opposed to the urban developers that X sold out to.	1
援助者の援助能力や資格の欠如	
Y is physically unable to help.	11
Y is stick or injured.	9
Y has a bad back.	4
Y is tired or weak.	4
Y is old or handicapped.	3
Y knows that he is not able to help X.	1
Y doesn't get along.	1
援助に対する援助者の消極的態度	
Y doesn't want to help.	7
Y is not taught better.	1
被援助者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y doesn't care for X.	5
Y doesn't care about X.	1
被援助者に対する援助者の非好意的態度	
Y dislikes X.	22
Y hates X.	16
Y has a prior commitment with X.	5
X doesn't help anyone when he is able.	1
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y has no time.	39
Y has better(other) things to do.	15
Y is not getting paid enough.	6
Y is out of town.	3
Y lives far away from X.	1
Y is in a bad mood/feeling.	1
援助報酬の期待の欠如	
Y will not pay Y.	6
Y feels that he will not be appreciated.	1
Y feels that Y takes advantage of Y's kindness.	1
援助出費の予想	
Y doesn't want X to move.	9
過去の非援助への報復	
X didn't help Y move.	4
将来の援助への期待の欠如	
Y doesn't think that X will return the favor.	7
過去の援助経験の存在	
Y broke his leg the last time he helped X move.	1
直接的な援助要請の欠如	
X didn't ask Y to help.	3
援助要請の好ましくない仕方	
Y feels that he is intruding.	2
X asked Y inconsiderately.	1



表25 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（落し物を届ける場合）

援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is greedy.	13
Y is dishonest.	7
Y is lazy.	6
Y is a thief.	6
Y is a jerk.	3
Y is stingy.	2
Y is selfish.	2
Y is inconsiderate.	2
Y has no conscious.	2
Y is mean.	1
Y is not a good samaritan.	1
Y is rude.	1
Y is a dog.	1
Y is a big fat dummy.	1
被援助者の援助抑制的人格特徴	
X is stupid enough to lose it.	4
Y knows X would do the same.	2
X is ugly.	1
援助者と被援助者の間の援助抑制的關係	
Y doesn't know X well enough.	10
援助の必要性の認識の欠如	
Y doesn't think it is important/valuable.	15
Y feels that X doesn't need it.	9
Y has "finders keepers, losers weepers" mentality.	4
Y feels it is something X should not have.	3
Y feels that it will be more useful to him than to X.	2
Y thinks it is personal gain.	1
X dies.	1
援助者の援助能力や資格の欠如	
Y doesn't know it belongs to X.	25
Y doesn't know how to reach X.	19
Y doesn't have any transportation.	1
援助に対する援助者の消極的態度	
Y doesn't feel like it.	2
被援助者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y doesn't care for X.	2
Y doesn't care about others.	1
被援助者に対する援助者の非好意的態度	
Y dislikes X.	25
Y hates X.	9
Y wants X to suffer the loss.	5
Y is jealous of X.	1
Y thinks that X should not lost of it.	1
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y doesn't have the time to return it.	9

Y is poor.	3
X lives too far away.	3
Y needs money.	2
Y is desperate.	1
援助報酬の期待の欠如	
Y can't expect anything in return.	5
非援助報酬の予想	
Y wants to keep it for himself.	45
Y wants what X lost.	13
It is valuable to Y.	11
It is money.	6
Y sells the item for profit.	5
援助出費の予想	
Y doesn't want to be bothered.	3
Y is afraid that X will think that he stole.	1
非援助出費の予想の欠如	
X has stolen it from Y earlier.	7
Y doesn't think X will find it out.	4
援助への圧力や義務感の欠如	
Y doesn't feel obligated to return it.	1
過去の非援助への報復	
X found something of Y's once, and didn't return it.	3
Y wants revenge on X.	2
過去の被援助経験の欠如	
Y lost something one time and never had it returned.	1
Y lost something too.	1
援助要請の好ましくない仕方	
Y feels pushed into doing so by silly laws.	1
援助の忘却	
Y forgot about it.	3

表26 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（席を譲る場合）

援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is selfish.	16
Y is a jerk.	12
Y is mean.	9
Y has no manners.	6
Y is inconsiderate.	5
Y is a disrespectful person.	4
Y is a bad person.	4
Y is lazy.	4
Y is cruel.	3
Y is unkind.	3
Y is not very understanding.	1
Y is dummy.	1

Y is bastard.	1
Y is heartless.	1
Y is very hateful to everyone.	1
Y is insensitive.	1
Y is not a thoughtful person.	1
Y is a spoiled child.	1
Y has no conscious.	1
被援助者の援助抑制的人格特徴	
X is bitchy.	1
援助者と被援助者の間の援助抑制的關係	
Y doesn't know X enough well.	1
援助の必要性の認識の欠如	
Y feels that X doesn't need to help.	13
Y expects someone else to offer seat.	12
There are (plenty of) other empty seats.	10
Y is there first.	3
Y doesn't read the rules.	1
援助者の援助能力や資格の欠如	
Y is sick, injured, old or handicapped.	54
Y is tired.	17
Y may need the seat just as much as X.	15
Y can't get up.	2
援助に対する援助者の消極的態度	
Y doesn't want to give up seat.	7
被援助者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y doesn't care to X.	6
Y doesn't care about X.	3
Y has no compassion or sympathies with X.	1
被援助者に対する援助者の非好意的態度	
Y dislikes X.	9
Y hates X.	7
Y feels that X shouldn't be on bus.	3
Y is prejudiced.	3
Y wants X to suffer.	3
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y doesn't see or notice X.	27
Y is in a bad mood/feeling.	4
Y has no home training.	2
Y is too far away from X.	1
被援助者の状況の援助抑制的特徴	
The bus is so crowded.	3
No one help X.	1
援助報酬の予想の欠如	
Y thinks that X will refuse the seat.	1
援助出費の予想	
Y is too embarrassed to do so.	3
Y doesn't want to pass up opportunity to sit next to attractive person.	1

援助への圧力や義務感の欠如		
Y feels no social or moral obligation.		4
過去の非援助に対する報復		
X never offered Y a seat before.		1
過去の援助経験の欠如		
Y has never offered his seat.		1
過去の被援助経験の欠如		
No one offered Y a seat when he injured.		1
援助要請の好ましくない仕方		
Y feels that he is being pushed to do so.		2
Y feels that X is faking it.		1

表27 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（両替の場合）

援助者の援助抑制的人格特徴		
Y is mean.		6
Y is selfish.		4
Y is a jerk.		3
Y is rude.		3
Y is a spiteful person.		2
Y is stingy.		1
Y is a rotten bum.		1
Y is a big fat dummy.		1
Y is too shy to speak up.		1
Y isn't nice.		1
Y isn't thoughtful.		1
Y is inconsiderate.		1
Y is hateful.		1
被援助者の援助抑制的人格特徴		
X is a strange looking person.		6
援助者と被援助者の間の援助抑制的關係		
Y doesn't know X enough well.		3
X is an enemy of Y.		1
援助の必要性の認識の欠如		
Y knows X can get change from someone else.		5
Y feels that X doesn't need change.		2
X has enough change already.		1
Y feels that X should bring his own change.		1
援助者の援助能力や資格の欠如		
Y doesn't have any change.		80
Y needs his change for himself.		55
Y doesn't have any money.		2
Y is deaf and doesn't hear X ask.		1
援助に対する援助者の消極的態度		
Y doesn't want to change.		11
Y's boss tells him not to.		2

米国における向社会的行動の分類学的研究（高木）

Y doesn't want to be helpful.	2
被援助者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y doesn't care if X gets change.	1
被援助者に対する援助者の非好意的態度	
Y dislikes X.	28
Y hates X.	10
Y doesn't trust X.	2
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y has no time.	16
Y is in a bad mood/feeling.	3
援助報酬の期待の欠如	
Y fears that X will use the chnge unwisely.	4
援助出費の予想	
Y doesn't want any more dollar bills.	4
Y doesn't want to be bothered.	3
It is too much trouble.	2
The dollar is counterfeit/useless.	2
Y doesn't want to get robbed by showing money.	1
Y is afraid of getting aids.	1
非援助出費の予想の欠如	
It is easier for Y to say "No" than to do it.	1
過去の非援助に対する報復	
X didn't give Y change.	4
過去の援助経験の欠如	
Y didn't give change to anyone.	1
過去の被援助経験の欠如	
No one gave Y change when Y needed it.	1
直接的な援助要請の欠如	
Y didn't ask Y to help.	1
援助要請の好ましくない仕方	
Y doesn't ask for the change politely enough.	4
Y feels that X is just manipulating him.	4

表28 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（道を譲る場合）

援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is rude/disrespectful.	12
Y is mean.	10
Y is agresive/competitive.	8
Y is stubborn.	8
Y is a jeerk.	5
Y is inconsiderate.	5
Y is selfish.	4
Y is a girl or lady.	2
Y is a lazy.	1
Y is a male.	1
Y is a cop.	1

被援助者の援助抑制的人格特徴	
X is tough.	1
援助の必要性の認識の欠如	
Y expects X to move out of the way.	27
Y thinks he has the right of way.	15
Y thinks that X should move.	7
X bumped into Y before.	2
Y thinks there is enough room for both to pass.	2
援助者の援助能力や資格の欠如	
Y is bigger than X.	18
Y is old or handicapped.	5
Y is tired of moving out of the way.	3
援助に対する援助者の消極的態度	
Y doesn't feel like giving up the path.	7
被援助者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y doesn't care about X.	3
Y doesn't care for X.	1
被援助者に対する援助者の非好意的態度	
Y dislikes X.	15
Y wants to hurt X.	7
Y hates X.	5
Y likes to cause trouble.	3
Y wants to irritate X.	1
Y wants to start a fight with X.	1
Y doesn't want X to pass.	1
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y doesn't see or notice X.	32
Y has no time.	13
Y is carrying something heavy, big or long.	8
Y is in a bad mood/feeling.	5
Y has no room to move.	3
There is nowhere he is going.	3
It is muddy on the side of the path.	3
Y is riding a bicycle.	1
Y's car is broken.	1
非援助報酬の期待	
Y wants to touch or talk to X.	11
Y doesn't want to show X that he is intimidated.	2
Y wants to dominate the situation.	1
援助出費の予想	
It is heavy load for Y.	5
非援助出費の予想の欠如	
Y is not afraid of X.	1
過去の援助経験の欠如	
Y never moved out of people's way.	2
援助要請の好ましくない仕方	
X gave Y a nasty look.	2

表29 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（献血の場合）

援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is selfish.	4
Y is a jerk.	3
Y is mean.	2
Y is cold as ice.	1
Y is inconsiderate.	1
Y is a uncaring person.	1
被援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is old or handicapped.	1
援助者と被援助者の間の援助抑制的關係	
Y doesn't know X enough well.	7
Y isn't a friend of X.	2
援助の必要性の認識の欠如	
Y feels that X can get blood from someone else.	8
Y doesn't know X needs blood.	7
Y feels that X doesn't need any blood.	6
X is going to die any way.	1
援助者の援助能力や資格の欠如	
Y doesn't have the right type of blood.	44
Y isn't healthy enough.	39
Y has Aids.	16
Y is under weight.	5
Y can't donate.	4
Y gave blood last week.	1
Y is GAY.	1
援助に対する援助者の消極的態度	
Y has religious believes against donating blood.	4
Y doesn't want to donate.	1
被援助者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y doesn't care about X.	13
Y doesn't care to X.	1
被援助者に対する援助者の非好意的態度	
Y dislikes X.	11
Y hates X.	8
Y wants X to suffer.	1
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y has no time.	11
Y needs blood for himself.	3
Y is an athlete.	3
Y is in bad mood/feeling.	1
Y has better things to do.	1
被援助者の状況の援助抑制的特徴	
There are not sanitary donation facilities.	1
援助報酬の期待の欠如	
Y can't expect anything in return.	3
Y feels as if it won't be appreciated.	1

援助出費の予想	
Y is afraid of donating blood.	66
Y is afraid of catching Aids.	13
Y can't stand the sight of blood.	2
It makes Y feel sick.	2
非援助出費の予想の欠如	
Y is the one that put X in the hospital to start with.	1
援助への圧力や義務感の欠如	
Y doesn't feel obligated.	2
過去の非援助に対する報復	
Y didn't donate blood when Y needed it.	5
Y is getting revenge.	1
過去の援助経験の存在	
Y has a previous bad experience with giving blood.	2
直接的な援助要請の欠如	
X didn't ask Y to donate blood.	2
援助要請の好ましくない仕方	
Y feels as if Y is being picked on.	1

表30 向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由（老人の介護の場合）

援助者の援助抑制的人格特徴	
Y is selfish.	10
Y is a mean person.	8
Y is a cold person.	4
Y is lazy.	3
Y is uncaring.	3
Y is a jerk.	2
Y isn't a nice person.	1
被援助者の援助抑制的人格特徴	
X is a pain to be around.	4
X is cruel.	4
X is too much of a burden.	3
X is terrible to Y.	3
X is so picky.	1
援助者と被援助者の間の援助抑制的關係	
Y doesn't know X enough well.	22
X is an enemy of Y.	1
Y isn't a friend of X.	1
Y doesn't feel any type of allegiance to X.	1
援助の必要性の認識の欠如	
Y doesn't feel that X needs help.	8
Y doesn't know X needs help.	8
Y expects someone else will help.	4
Y thinks that X is unwilling to receive help.	2
Y thinks X should be able to take care of himself.	2



米国における向社会的行動の分類学的研究（高木）

X already has someone.	1
Y thinks X should seek professional help.	1
援助者の援助能力や資格の欠如	
Y doesn't know how to take care of X.	13
Y is also old or handicapped.	12
Y isn't able to take care of X.	11
Y has no(enough) money.	8
Y is not qualified.	5
Y can't afford it.	3
Y doesn't have the patience.	3
Y is sick himself.	1
援助に対する援助者の消極的態度	
Y doesn't want to help.	5
被援助者に対する援助者の思いやりの欠如	
Y doesn't care to X.	8
Y has no compassion or sympathies with X.	4
Y doesn't care about X.	2
Y is apathetic to X.	2
Y doesn't care for X.	1
被援助者に対する援助者の非好意的態度	
Y dislikes X.	32
Y hates X.	7
Y wants X to die.	5
Y wants X to suffer.	2
Y doesn't think X is important.	2
Y feels that X is a nuisance.	1
援助者の状況の援助抑制的特徴	
Y has no time.	45
Y has other(better) things to do.	12
Y is in the bad mood/feeling.	2
援助報酬の期待の欠如	
Y can't expect anything in return.	10
援助出費の予想	
Someone asked Y not to.	1
援助への圧力や義務感の欠如	
Y feels it is not his responsibility to take care of X.	2
Y doesn't feel obligated.	1
It isn't Y's job.	1
過去の非援助に対する報復	
X never did anything for Y or anyone else.	4
援助要請の好ましくない仕方	
X got on Y's nerves.	5
無償ゆえの非援助	
Y isn't getting paid to.	4
代替援助の可能性	
Let somebody else do it.	3

表31 向社会的行動の促進的規定要因の分類カテゴリーと代表的な応答反応

---

援助者の援助促進的人格特徴 (3-353)	
Y is a nice person. (146)	
Y is kind. (74)	
Y is courteous/polite. (58)	
Y is generous. (26)	
Y is honest. (22)	
Y is a caring person. (15)	
Y has good manner. (12)	
被援助者(援助要請者)の援助促進的人格特徴 (13-60)	
X is fat or bigger than Y. (28)	
X is old or handicapped. (16)	
X is female. (13)	
X is beautiful. (3)	
援助者と被援助者(援助要請者)の間の援助促進的關係 (1-419)	
Y is a friend of X. (225)	
Y is a relative of X. (146)	
Y knows X enough well. (48)	
援助の必要性の認識 (8-137)	
Y knows that X needs it/Y. (86)	
Y feels that it is an important or emergency. (33)	
Y knows that it is important to X. (18)	
被援者の援助能力や資格の存在 (7-161)	
Y has the medical skill and knowlege to help X. (44)	
Y has spare(extra) money. (39)	
Y has some spare change. (37)	
Y has same or much blood. (28)	
Y is yonger than X. (13)	
援助に対する援助者の積極的態度 (5-185)	
Y knows that it is the right thing to do. (60)	
Y likes/wants to help others. (46)	
Y likes the charity. (36)	
Y feels the charity is a worthy cause. (33)	
Y likes to follow public manners. (10)	
被援助者(援助要請者)に対する援助者の思いやりの存在 (4-208)	
Y wants to help/get rid of X. (72)	
Y has compassion or sympathies with X. (53)	
Y feels sorry for X. (45)	
Y cares for X. (21)	
Y cases about X. (17)	
被援助者(援助要請者)に対する援助者の好意的態度 (8-137)	
Y loves X. (70)	
Y likes X. (47)	
Y trusts X. (20)	
* 被援助者(援助要請者)に対する援助者の非好意的態度 (20-15)	
X looks mean. (8)	
Y dislikes X. (7)	

- 援助者の状況の援助促進的特徴 (14-58)
- Y has nothing better to do. (22)
  - Y is in a good mood/feeling. (16)
  - No one else can help X. (13)
  - Y is the only one nearby. (7)
- 被援助者 (援助要請者) の状況の援助促進的特徴 (18-33)
- X can't move. (16)
  - X is carrying something. (12)
  - X is in a hurry. (5)
- 援助報酬の期待 (2-385)
- Y expects something in return. (133)
  - It is benefit both of them. (56)
  - Y expects money. (51)
  - Y needs tax wright-off/free. (35)
  - Y wants to feel good about himself. (31)
  - Y wants X or others to see how kind Y is. (27)
  - Y wants to be nice. (13)
  - Y wants to impress X. (12)
  - Y wants to show respect for X. (12)
  - Y wants to feel self-worth or satisfaction. (8)
  - Y wants to meet X. (7)
- 非援助報酬の期待の欠如 (17-34)
- Y has no use for it. (34)
- 援助出費の予想の欠如 (15-56)
- It is easy/requires little effort for Y. (28)
  - Y is getting off soon. (17)
  - Y wants to stand up/stretch. (11)
- 非援助出費の予想 (11-73)
- Y would feel guilty if no helping given. (45)
  - Y wants to avoid a conflict. (28)
- 援助への圧力や義務感の存在 (6-166)
- It is Y's job to help. (80)
  - Y feels obligated to help. (44)
  - Y feels pressured to help. (16)
  - Y is afraid of X. (14)
  - Y feels threatened to help. (12)
- 過去の援助への返報 (10-116)
- X owes X a favor. (83)
  - Y wants to reciprocate. (33)
- 将来の援助への期待 (12-63)
- Y may someday need some/same helping as well. (63)
- 罪障感の低減の必要性 (21-8)
- Y caused the illness or injury. (6)
  - Y is for that cause. (2)
- 過去の援助経験の存在 (21-8)
- Y regularly helps. (5)
  - Y has the same/similar experience in helping. (3)

- 過去の援助経験の欠如 (27-0)  
Y has no experience in helping. (0)
- 過去の被援助経験の存在 (24-2)  
Y has the experience being helped. (2)
- 過去の被援助経験の欠如 (24-2)  
Y has the experience not being helped. (2)
- 直接的な援助要請の存在 (19-32)  
X asked Y to help. (32)
- 援助要請の好ましい仕方 (24-2)  
X is pleasant in his approach. (1)  
Y is manipulated into feeling it is his duty. (1)
- 有償の仕事としての援助 (16-42)  
Y is (getting) paid to help. (42)
- 無意識の援助 (23-7)  
Y does it instinctively. (7)

---

注) \*「道を譲る」行動の場合にのみ見られる特殊なカテゴリーである。

表32 向社会的行動の抑制的規定要因の分類カテゴリーと代表的な応答反応

---

- 援助者の援助抑制的人格特徴 (4-247)  
Y is selfish. (59)  
Y is mean. (49)  
Y is a jerk. (40)  
Y is stingy. (24)  
Y is lazy. (22)  
Y is greedy. (20)  
Y is inconsiderate. (17)  
Y is rude/disrespect. (16)
- 被援助者 (援助要請者) の援助抑制的人格特徴 (14-21)  
X is ugly. (6)  
X is careless. (6)  
X is irresponsible. (5)  
X is cruel. (4)
- 援助者と被援助者 (援助要請者) の間の援助抑制的關係 (8-125)  
Y doesn't know X enough well. (102)  
Y is not a friend of X. (10)  
X is an enemy of Y. (10)
- 援助の必要性の認識の欠如 (6-167)  
Y doesn't think/know that X needs help. (75)  
Y thinks that X should move. (34)  
Y expects that someone else will help. (29)  
Y doesn't think that it is important/valuable. (15)  
Y thinks that X will refuse Y's help. (7)  
Someone else is already helping X. (7)
- 援助者の援助能力や資格の欠如 (1-702)  
Y doesn't have any/enough money. (154)

- Y is (also) sick, ill or injured. (90)  
Y needs it him(her)self. (82)  
Y doesn't have any change. (80)  
Y is (also) old or handicapped. (75)  
Y doesn't know how to help or what to do. (62)  
Y doesn't have the right type of blood. (44)  
Y can't afford to. (29)  
Y doesn't know that it belongs to X. (25)  
Y is tired or weak. (24)  
Y doesn't know how to reach X. (19)  
Y is bigger than X. (18)
- 援助に対する援助者の消極的態度 (7-153)  
Y doesn't want/like to help others. (92)  
Y doesn't believe that helping is worthwhile. (52)  
Y has religious believes against helping. (5)  
Y doesn't care about helping. (4)
- 被援助者 (援助要請者) に対する援助者の思いやりの欠如 (10-75)  
Y doesn't care about X. (30)  
Y doesn't care for X. (19)  
Y doesn't care to X. (15)  
Y has no compassion or sympathies with X. (10)  
Y doesn't feel sorry for X. (1)
- 被援助者 (援助要請者) に対する援助者の好意的態度 (26-0)  
Y feels that X is attractive. (0)
- 被援助者 (援助要請者) に対する援助者の非好意的態度 (2-384)  
Y dislikes X. (220)  
Y hates X. (83)  
Y doesn't trust/believe X. (48)  
Y wants X to suffer. (15)  
Y wants X to die. (11)  
Y wants to hurt X. (7)
- 援助者の状況の援助抑制的特徴 (3-289)  
Y has no time. (158)  
Y doesn't see or notice X. (59)  
Y has better/other thing to do. (44)  
Y is in a bad mood/feeling. (20)  
Y is carrying something heavy/big/long. (8)
- 被援助者 (援助要請者) の状況の援助抑制的特徴 (24-3)  
X is injured too serious. (3)
- 援助報酬の期待の欠如 (11-47)  
Y can't expect anything in return. (24)  
Y feels that X will take advantage of Y's kindness. (8)  
Y thinks that X will not pay me. (6)  
Y thinks that it is not tax deductible. (6)  
Y feels that it will not be appreciated. (3)
- 非援助報酬の期待 (9-86)  
Y wants to keep what X lost. (58)  
It is valuable to Y. (17)

Y wants to touch or take to X. (11)

援助出費の予想 (5-201)

Y is afraid of donating blood. (73)

Y is afraid of not getting money back. (50)

Y doesn't want to catch X's disease. (26)

Y is afraid that he would do something wrong. (18)

Y doesn't want X to move. (9)

Y doesn't want to be bothered. (9)

It is too much trouble. (7)

Y doesn't want any more dollar bills. (6)

Y will be embarrassed to do so. (3)

非援助出費の予想の欠如 (16-12)

X has stolen it from Y earlier. (7)

Y doesn't think that X will find it out. (4)

Y is not afraid of X. (1)

援助への圧力や義務感の欠如 (16-12)

Y feels no social or moral obligation. (5)

Y doesn't feel obligated to help. (4)

Y feels no social responsibility to help. (2)

It is not Y's job. (1)

過去の非援助への報復 (12-35)

X didn't help when Y needed it. (32)

Y wants revenge on X. (3)

将来の援助への期待の欠如 (16-12)

Y feels that X will not help him if he needs it. (12)

罪障感の低減の不必要性 (26-0)

Y didn't cause the illness or injury. (0)

Y is not for that cause. (0)

過去の援助経験の欠如 (20-8)

Y has never helped others. (8)

過去の援助経験の存在 (13-25)

\* Y has already helped others. (23)

Y has a previous bad experience in helping. (2)

過去の被援助経験の欠如 (22-4)

No one helped Y when he needed it. (4)

過去の被援助経験の存在 (26-0)

Y has the experience being helped. (0)

直接的な援助要請の欠如 (19-10)

X didn't ask Y to help. (10)

援助要請の好ましくない仕方 (15-18)

Y feels that he is being pushed to do so. (5)

X got on Y's nerves. (5)

X doesn't ask for help politely enough. (4)

Y feels that X is just manipulating him. (4)

代替援助の可能性 (20-8)

Y donates other helping for X. (5)

Let somebody else do it. (3)

援助の忘却 (24-3)

Y forgot about helping. (3)  
無償ゆえの非援助 (22-4)  
Y is not getting paid to. (4)

---

注) \*「既に援助を行っているので、今回は援助しなくてもよいだろう」という考えである。

会的行動に特有に認められる動機、原因、理由を一層詳細に理解して研究に使用したいときには、表から明らかなように、行動によってそれらが幾分異なるため、それらに関する行動毎の厳密な吟味が必要であろう。

#### (6)10種類の向社会的行動に共通する促進的、および抑制的行動規定要因

10種類の向社会的行動の全てに、あるいは多くに共通して CAPS の96名のサンプルが応答した行動規定要因の中の代表的な動機、原因、理由が要因カテゴリーを基準にして整理されて、行動生起を促進する要因に関しては表31に、抑制する要因に関しては表32にまとめられている。なお、促進的要因と抑制的要因の対応性を考慮して、実際には出現しなかった要因も表には記載されてある。ここでは、それらの表に基づいて、応答総数の多かった分類カテゴリーに注目して、それらに所属する代表的な促進要因と抑制要因とを考察する。

まず、向社会的行動の生起を促進する動機、原因、理由（表31）について見てみると、最も応答総数の多かったカテゴリーは「援助者と被援助者（あるいは援助要請者）の間の援助促進的関係」（応答総数は、このカテゴリーに属する要因が第1位で、その数は、419個である。以下同様に記述する）である。それに属する動機、原因、理由の内容は、具体的には、「YとXが友人、知人、恋人、もしくは親戚の関係にある」というものであり、未知の関係よりも既知で、しかも心理的に近い関係にある時に援助が促進されるということである。これに次いで応答総数の多いカテゴリーが「援助報酬の期待」（385個）であり、これには「援助することによって被援助者もしくは第三者からの物質的あるいは社会的・心理的見返りが期待できたり、自己報酬が望める時に援助が促進される」という内容の要因が属している。3番目に応答総数の多かったカテゴリーは「援助者の援助促進的人格特徴」（353個）である。これは、「Yがどんな人に対しても思いやりがある、親切、気前がよい、礼儀正しい、あるいは正直な人物だと、YはXを援助し易い」ということを意味している。第4番目のカテゴリーは「被援助者（あるいは援助要請者）に対する援助者の思いやりの存在」（208個）であり、「特にXに対してYが同情し、Xのことを気に掛け、心配し、Xを助け、嫌な状態からXを解放してやりたいと願っていると、YはXを援助し易い」という内容の要因を含んでいる。第5番目のカテゴリーは「援助に対する援助者の積極的態度」（185個）である。これは、「Yが、援助することは価値があり、正しいことであり、良き社会の風習に従うことであると考え、そうすることの義務を感じ、またそうすることを望んでいると、援助し易い」ということを意味している。第6番目のカテゴリーは「援助への圧力や義務感の存在」（166個）であり、「援助することの義務やそれへの圧力を感じる、あるいは、Xが恐く

て、援助するようにXから脅されていると感じている時に、YはXを援助し易い”ということの意味している。第7番目のカテゴリーは「援助者の援助能力や資格の存在」(161個)である。これには、“援助するために必要な技能や知識、物質的余裕、あるいは身体的能力が自分にあると思われる時、Yは援助し易い”という内容の要因が所属している。第8番目のカテゴリーは「援助の必要性の認識」と「被援助者(援助要請者)に対する援助者の好意的態度」(137個)とであり、前者は“Xが緊急事態にあって援助を必要としており、Xにとって援助が重要であるとYが感じた時に援助は起こり易い”ということ、後者は“被援助者(援助要請者)を愛しているとか信頼しているとかのように好意的態度を援助者が持っている場合、援助が起こり易い”ということの意味している。第10番目のカテゴリーは「過去の援助への返報」援助し易い”ということ(116個)であり、“YがXから恩恵を受けており、Xに返礼したいと願っている場合、YはXをとを意味している。第11番目のカテゴリーは「非援助出費の予想」(73個)であり、“援助しないと罪の意識に悩むだろうとか、対立や抗争に発展するということが予想され、それを回避するために、Yは援助し易い”ということの意味している。第12番目のカテゴリーは「将来の援助への期待」(63個)であり、“将来自分も同様の援助を必要とするかもしれず、その時援助してもらえるようにと、Yは援助しようとする”ということの意味している。第13番目のカテゴリーは「被援助者(援助要請者)の援助促進的人格特徴」(60個)であり、これは“被援助者、あるいは援助要請者が女性であったり、老人や障害者といった社会的弱者であるとき、援助が起こり易い”ということの意味している。第14番目のカテゴリーは「援助者の状況の援助促進的特徴」(58個)であり、“Yには行うべきこととして援助以上に好ましいことが他にはない、よい気分や感情状態にある、誰もXを援助していない、自分だけがXの近くにいる、といったようにYのいる状況が援助を促すような特徴を持っている時に、援助が起こり易い”ということの意味している。第15番目のカテゴリーは「援助出費の予想の欠如」(56個)であり、“援助が容易で、そのためにはほとんど努力を必要としない場合、Yは進んで援助しようとする”ということの意味している。

以上のカテゴリーの他にもいくつかの援助促進的要因のカテゴリーがあり、総応答数の多い順にそれらの名称と総応答数を挙げると、「有償の仕事としての援助」(42個)、「非援助報酬の期待の欠如」(34個)、「被援助者(援助要請者)の状況の援助促進的特徴」(33個)、「被援助者(援助要請者)の援助促進的人格特徴」(32個)、「直接的な援助要請の存在」(32個)、「被援助者(援助要請者)に対する援助者の好意的態度」(20個)、「被援助者(援助要請者)に対する援助者の非好意的態度」(15個)、「過去の援助経験の存在」(8個)、「罪障感の低減の必要性」(8個)、「無意識の援助」(7個)、「過去の被援助経験の存在」(2個)、「過去の被援助経験の欠如」(2個)、「援助要請の好ましい仕方」(2個)、「過去の援助経験の欠如」(これに属する応答は実際にはなかった。)である。

ではつきに、向社会的行動の生起を抑制する動機、原因、理由を表32に基づいて見てみよう。カテゴリーの内で最も応答総数の多かったカテゴリーは「援助者の援助能力や資格の欠如」(702



個)である。このカテゴリーに属する抑制要因の内容は、“援助するために必要な技能や知識、物質的余裕、あるいは身体的能力が自分がないと思われる時、YはXを援助し難い”ということの意味している。これに次いで応答総数の多いカテゴリーが「被援助者（援助要請者）に対する援助者の非好意的態度」(384個)である。これには、“YがXを嫌い、憎み、あるいは信用しておらず、Xが苦しんだり、死んでしまうことさえ願っている時、YはXを援助しようとはしない”という内容の要因が含まれている。3番目に応答総数の多かったカテゴリーは「援助者の状況の援助抑制的特徴」(289個)であり、これは、“Yには他にすることがあって、援助のために時間が割けないとか、何らかの理由で困っているXを見たり気づいたり出来ないとか、気分や感情が悪い状態にYがいるような場合、Yは援助し難い”ということの意味している。第4番目のカテゴリーは「援助者の援助抑制的人格特徴」(247個)である。これは、“利己的、けちで貪欲、愚か者、怠惰、思いやりのない、あるいは、粗野で無作法、といった特徴を持っていると、Yは援助し難い”ということの意味している。第5番目のカテゴリーは「援助出費の予想」(201個)であり、“援助するためには、例えば苦痛に耐える、お金を失う、病気になる、親しい人を失う、恥ずかしい思いをするといったような多くの問題や犠牲や好ましくない結果が伴うと予想する時、Yは援助し難い”ということの意味している。第6番目のカテゴリーは「援助の必要性の認識の欠如」(167個)であり、“Xが援助を必要としているとは思わないとかそのことを知らない、Xが援助に値しないと思う、あるいは、誰かが既に援助している、いずれ援助するので自分が援助する必要はないと考えるような場合、Yは援助し難い”ということの意味している。第7番目のカテゴリーは「援助に対する援助者の消極的態度」(153個)である。これは、“他者を援助することが嫌いで援助したいとも思わないし、援助が価値のあることとは考えない場合、Yは援助し難い”ということの意味している。第8番目のカテゴリーは「援助者と被援助者(援助要請者)の間の援助抑制的關係」(125個)であり、これは、“YはXのことを十分に知らず、両者が友人関係にではなく、むしろ敵対関係にすらある場合、YはXを援助し難い”ということの意味している。第9番目のカテゴリーは「非援助報酬の期待」(86個)であり、“援助しないことによって好ましい結果がもたらされると期待できる時に、YはXを援助しない”ということの意味している。第10番目のカテゴリーは「被援助者（援助要請者）に対する援助者の思いやりの欠如」(75個)である。これは、“XにYが同情、共感したり、Xのことを気に掛けて心配したりする気持ちがないと、YはXを援助しようとはしない”ということの意味している。第11番目のカテゴリーは「援助報酬の期待の欠如」(47個)であり、“援助しても何らの見返りも期待できないとか、相手から感謝されることもないと思われる時、YはXを援助しようとはしない”ということの意味している。第12番目のカテゴリーは「過去の非援助への報復」(35個)である。これは、“かつてYが助けてほしい時にXが援助せず、そのためYがXに仕返しをしたいと願っているような場合、YはXを援助しない”ということの意味している。第13番目のカテゴリーは「過去の援助経験の存在」(25個)であり、これは、“もう既に自分は他者を十分に援助しているとか、過去に援

表33 向社会的行为の規定要因の分類カテゴリ

1. 促進的要因

援助者と被援助者（援助要請者）間の援助促進的關係（1-419）  
 援助報酬の期待（2-385）  
 援助者の援助促進的人格特徴（3-353）  
 被援助者（援助要請者）に対する援助者の思いやりの存在（4-208）  
 援助に対する援助者の積極的態度（5-185）  
 援助への圧力や義務感の存在（6-166）  
 援助者の援助能力や資格の存在（7-161）  
 援助の必要性の認識（8-137）  
 被援助者（援助要請者）に対する援助者の好意的態度（8-137）  
 過去の援助への返報（10-116）  
 非援助出費の予想（11-73）  
 将来の援助への期待（12-63）  
 被援助者（援助要請者）の援助促進的人格特徴（13-60）  
 援助者の状況の援助促進的特徴（14-58）  
 援助出費の予想の欠如（15-56）  
 有償の仕事としての援助（16-42）  
 非援助報酬の期待の欠如（17-34）  
 被援助者（援助要請者）の状況の援助促進的特徴（18-33）  
 直接的な援助要請の存在（19-32）  
 被援助者（援助要請者）に対する援助者の非好意的態度（20-15）  
 罪障感の低減の必要性（21-8）  
 過去の援助経験の存在（21-8）  
 無意識の援助（23-7）  
 過去の被援助経験の存在（24-2）  
 過去の被援助経験の欠如（24-2）  
 援助要請の好ましい仕方（24-2）  
 過去の援助経験の欠如（27-0）

2. 抑制的要因

援助者の援助能力や資格の欠如（1-702）  
 被援助者（援助要請者）に対する援助者の非好意的態度（2-384）  
 被援助者の状況の援助抑制的特徴（3-289）  
 援助者の援助抑制的人格特徴（4-247）  
 援助出費の予想（5-201）  
 援助の必要性の認識の欠如（6-167）  
 援助に対する援助者の消極的態度（7-153）  
 援助者と被援助者（援助要請者）間の援助抑制的關係（8-125）  
 非援助報酬の期待（9-86）  
 被援助者（援助要請者）に対する援助者の思いやりの欠如（10-75）  
 援助報酬の期待の欠如（11-47）  
 過去の非援助への報復（12-35）  
 過去の援助経験の存在（13-25）  
 被援助者（援助要請者）の援助抑制的人格特徴（14-21）  
 援助要請の好ましくない仕方（15-18）  
 非援助出費の予想の欠如（16-12）  
 将来の援助への期待の欠如（16-12）

援助への圧力や義務感の欠如（16-12）  
直接的な援助要請の欠如（19-10）  
過去の援助経験の欠如（20-8）  
代替援助の可能性（20-8）  
無償ゆえの非援助（22-4）  
過去の被援助経験の欠如（22-4）  
被援助者（援助要請者）の状況の援助抑制的特徴（24-3）  
援助の忘却（24-3）  
援助者（援助要請者）に対する援助者の好意的態度（26-0）  
罪障感の低減の不必要性（26-0）  
過去の被援助経験の存在（26-0）

---

助して嫌な思いをした経験があるような場合、YはXを援助しようとはしない”ということの意味している。第14番目のカテゴリーは「被援助者（援助要請者）の援助抑制的人格特徴」（21個）であり、“Xが醜いとか、不注意、無責任、あるいは、残酷、無慈悲であると思う時、YはXを助けようとしなない”ということの意味している。第15番目のカテゴリーは「援助要請の好ましくない仕方」（18個）である。これは、“Xが丁寧に援助を要請せず、援助を強制するように受け取られ、Yの気分を害するような場合、YはそのようなXを助けようとはしない”ということの意味する。

以上のカテゴリーの他にもいくつかの援助抑制的要因のカテゴリーがあり、総応答数の多い順にそれら名称と総応答数を挙げると、「非援助出費の予想の欠如」（12個）、「将来の援助への期待の欠如」（12個）、「援助への圧力や義務感の欠如」（12個）、「直接的な援助要請の欠如」（10個）、「過去の援助経験の欠如」（8個）、「代替援助の可能性」（8個）、「無償ゆえの非援助」（4個）、「過去の被援助経験の欠如」（4個）、「被援助者（援助要請者）の状況の援助抑制的特徴」（3個）、「援助の忘却」（3個）、「被援助者（援助要請者）に対する援助者の好意的態度」（0個）、「罪障感の低減の不必要性」（0個）、「過去の被援助経験の存在」（0個）である。

以上、向社会的行動の生起を促進する、または抑制する動機、原因、理由を吟味してきた。ところで、表33は、応答数の観点から促進的要因と抑制的要因とを比較し、応答傾向にどのような共通性や差異があるかを検討するために、応答総数の大きさの順にカテゴリーを並べ変えた表である。向社会的行動の生起において日頃しばしば問題になると思われる要因は、一般に多くのサンプルによって応答されるだろうと考えられる。したがって、応答数の多い要因は援助行動の生起において比較的重要な意味を持っていると考えられる。その観点から、表33を検討すると、援助の促進と抑制のいずれにおいても共通して比較的重要な要因となっていると考えられる動機、原因、理由と促進あるいは抑制のいずれかで比較的重要な要因となっている動機、原因、理由の2つの種類のあることがわかる。そこで、それらについて検討してみると、まず前者の種類の動機、原因、理由としては、援助者の持っている援助に関係する人格特徴、援助に対する援助者の態度、および援助の必要性の認識とがある。これを解釈すると、“援助者が援助を促進（抑制）

するような人格特徴や援助に対して積極的（消極的）な態度を持っていれば、また、援助が必要（不必要）であると状況を認識すれば、援助が起り易い（難しい）”ということである。

他方、促進あるいは抑制のいずれかで比較的重要な要因となる後者の種類の動機、原因、理由について検討すると、まず、抑制よりも促進の方向で比較的重要な要因になると推定される動機、原因、理由としては、援助者と被援助者（援助要請者）の間に援助を促進するような関係があること、援助報酬が期待できること、および被援助者（援助要請者）に対して援助者が思いやりを持っていること、援助するよとの圧力や援助しなければならないという義務感の喚起が存在することなどがある。これは、親密な関係に両者がいないとか、援助から報酬が期待できないとか、被援助者（援助要請者）への思いやりを欠いているとか、援助への圧力や義務感が存在しないとかいった理由で援助が抑制されることもあろうが、それ以上に、両者が親密な関係にあり、援助することから報酬が期待でき、被援助者（援助要請者）に対して思いやりを持ち、援助する方向への圧力や義務感が存在するとかいった理由で援助が促進されることの方が一層起り易いということを暗示している。さて、促進よりはむしろ抑制の方向で比較的重要な要因になると推定される動機、原因、理由としては、援助者の援助能力や資格の欠如、被援助者に対する援助者の非好意的態度、援助者の状況の援助抑制的特徴、援助出費の予想、そして、非援助報酬の期待などがある。これらの要因は、援助者の援助能力や資格の存在、被援助者に対する援助者の好意的態度、援助者の状況の援助促進的特徴、援助出費の予想の欠如、そして、非援助報酬の期待の欠如といった要因が援助の促進に関わる以上に、援助の抑制に一層強く関係し易いことを暗示している。なお、応答数の多い要因が行動決定において重要であると仮定して以上の考察を進めてきたが、実際にこのような規定関係にあるかどうかは、今後の研究で確かめる必要がある。

#### 4. 比較文化的関心から今後期待される向社会的行動の分類学的研究

前項3.の2)において記したように、米国において向社会的行動の生起を促進の方向で、あるいは抑制の方向で規定すると思われる代表的な要因、つまり、動機、原因、理由が明らかにされた。比較文化的関心から、日本における研究と同じ手順で米国における向社会的行動の分類学的研究を今後更に発展させるためには、要因の分類カテゴリーと応答総数および要因の意味内容の類似性などを手がかりにして、例えば、意味の類似する要因はできるだけまとめた上で、応答数の多いカテゴリーからは数個、少ないカテゴリーからは1個の要因を選択するといった方法によって、明らかにされた多数の要因の中から、それらの今後の研究で取り扱うことのできる程度の数（例えば、50個前後）の要因を選択しなければならない。なお、表34と表35は、そのようにして予備的に選定された促進要因と抑制要因のリストである。

表34 向社会的行動の代表的な促進的規定要因（分類カテゴリー）

- 
- 援助者と被援助者（援助要請者）の間の援助促進的關係（1-419）  
Y is a friend of X. (225)  
Y is a relative of X. (146)  
Y knows X enough well. (48)
- 援助報酬の期待（2-385）  
Y expects something in return. (184)  
It is benefit both of them. (56)  
Y wants X or others to see how kind Y is. (46)  
Y wants to feel good about himself. (39)  
Y needs tax wright-off/free. (35)
- 援助者の援助促進的人格特徴（3-353）  
Y is a nice person. (146)  
Y is kind. (89)  
Y is courteous/polite. (70)  
Y is generous. (26)  
Y is honest. (22)
- 被援助者（援助要請者）に対する援助者の思いやりの存在（4-208）  
Y wants to help/get rid of X. (72)  
Y has compassion or sympathies with X. (53)  
Y feels sorry for X. (45)  
Y cares for/about X. (38)
- 援助に対する援助者の積極的態度（5-185）  
Y knows that it is the right/worthy thing to help. (93)  
Y likes/wants to help others. (82)  
Y likes to follow public manners. (10)
- 援助への圧力や義務感の存在（6-166）  
Y thinks that it is Y's job to help. (80)  
Y feels obligated/pressured to help. (60)  
Y feels threatened to help. (26)
- 援助者の援助能力や資格の存在（7-161）  
Y has spare(extra) money/change. (76)  
Y has the skill, ability and knowledge to help X. (57)  
Y has same or much blood. (28)
- 援助の必要性の認識（8-137）  
Y knows that X needs it/Y. (86)  
Y knows that it is important or emergency to X. (51)
- 被援助者（援助要請者）に対する援助者の好意的態度（8-137）  
Y loves X. (70)  
Y likes X. (47)  
Y trusts X. (20)
- 過去の援助への返報（10-116）  
Y owes X a favor. (83)  
Y wants to reciprocate. (33)
- 非援助出費の予想（11-73）  
Y expects guilty if no helping given. (45)  
Y wants to avoid a conflict. (28)

- 将来の援助への期待 (12-63)  
Y may someday need some/same helping as well. (63)
- 被援助者(援助要請者)の援助促進的人格特徴 (13-60)  
X is female, old or handicapped. (29)  
X is fat or bigger than Y. (28)
- 援助者の状況の援助促進的特徴 (14-58)  
Y has nothing better to do. (22)  
Y is in a good mood/feeling. (16)  
No one else can help X. (13)  
Y is the only one nearby. (7)
- 援助出費の予想の欠如 (15-56)  
It requires little effort for Y. (45)
- 有償の仕事としての援助 (16-42)  
Y is (getting) paid to help. (42)
- 非援助報酬の期待の欠如 (17-34)  
Y has no use for it. (34)
- 被援助者(援助要請者)の状況の援助促進的特徴 (18-33)  
X can't do anything. (16)  
X is carrying something. (12)  
X is in a hurry. (5)
- 直接的な援助要請の存在 (19-32)  
X asked Y to help. (32)
- \* 被援助者(援助要請者)に対する援助者の非好意的態度 (20-15)  
X looks mean. (8)  
Y dislikes X. (7)
- 罪障感の低減の必要性 (21-8)  
Y is for that cause. (8)
- 過去の援助経験の存在 (21-8)  
Y has the same/similar experience in helping. (8)
- 無意識の援助 (23-7)  
Y does it instinctively. (7)
- 過去の被援助経験の存在 (24-2)  
Y has the experience being helped. (2)
- 過去の被援助経験の欠如 (24-2)  
Y has the experience not being helped. (2)
- 援助要請の好ましい仕方 (24-2)  
X is pleasant in his approach. (2)
- 過去の援助経験の欠如 (27-0)  
Y has no experience in helping. (0)
-

表35 向社会的行動の代表的な抑制的規定要因 (分類カテゴリー)

---

援助者の援助能力や資格の欠如 (1-702)
Y doesn't have any/enough money/change. (234)
Y is tired, ill or injured. (114)
Y doesn't know how to help or what to do. (106)
Y needs it him(her)self. (82)
Y is old or handicapped. (75)
Y can't afford to. (73)
被援助者 (援助要請者) に対する援助者の非好意的態度 (2-384)
Y dislikes X. (220)
Y hates X. (83)
Y doesn't trust/believe X. (48)
Y wants X to suffer or die. (33)
援助者の状況の援助抑制的特徴 (3-289)
Y has no time. (158)
Y doesn't see or notice X. (59)
Y has better/other thing to do. (44)
Y is in a bad mood/feeling. (20)
援助者の援助抑制的人格特徴 (4-247)
Y is mean/stingy/greedy. (93)
Y is selfish. (76)
Y is a jerk. (40)
Y is lazy/rude/disrespect. (38)
援助出費の予想 (5-201)
Y is afraid that he would get something wrong. (82)
Y is afraid of helping. (73)
Y is afraid that he would do something wrong. (27)
Y doesn't want to be bothered. (19)
援助の必要性の認識の欠如 (6-167)
Y doesn't think that X needs help. (131)
Y expects that someone else will help X. (29)
Y knows that someone else is already helping X. (7)
援助に対する援助者の消極的態度 (7-153)
Y doesn't want to help others. (96)
Y doesn't believe that helping is worthwhile. (57)
援助者と被援助者 (援助要請者) の間の援助抑制的關係 (8-125)
Y doesn't know X enough well. (102)
Y is not a friend of X. (10)
X is an enemy of Y. (10)
非援助報酬の期待 (9-86)
Y wants to keep what X lost. (75)
被援助者 (援助要請者) に対する援助者の思いやりの欠如 (10-75)
Y doesn't care about/for/to X. (64)
Y has no compassion or sympathies with X. (10)
Y doesn't feel sorry for X. (1)
援助報酬の期待の欠如 (11-47)
Y can't expect anything in return. (41)

- Y thinks that it is not tax deductible. (6)
- 過去の非援助への報復 (12-35)
- X didn't help when Y needed it. (32)
- Y wants revenge on X. (3)
- 過去の援助経験の存在 (13-25)
- \* Y has already helped others. (23)
- Y has a previous bad experience in helping. (2)
- 被援助者 (援助要請者) の援助抑制的人格特徴 (14-21)
- Y thinks that X is careless or irresponsible. (11)
- X is ugly. (6)
- 援助要請の好ましくない仕方 (15-18)
- Y feels that he is being pushed to do so. (9)
- X got on Y's nerves. (5)
- X doesn't ask for help politely enough. (4)
- 非援助出費の予想の欠如 (16-12)
- Y doesn't think that X will find it out. (12)
- 将来の援助への期待の欠如 (16-12)
- Y feels that X will not help him if he needs it. (12)
- 援助への圧力や義務感の欠如 (16-12)
- Y doesn't feel obligated to help. (9)
- Y feels no social responsibility to help. (2)
- 直接的な援助要請の欠如 (19-10)
- X didn't ask Y to help. (10)
- 過去の援助経験の欠如 (20-8)
- Y has never helped others. (8)
- 代替援助の可能性 (20-8)
- Y donates other helping for X. (5)
- Let somebody else do it. (3)
- 無償ゆえの非援助 (22-4)
- Y is not getting paid to. (4)
- 過去の被援助経験の欠如 (22-4)
- No one helped Y when he needed it. (4)
- 被援助者 (援助要請者) の状況の援助抑制的特徴 (24-3)
- X is injured too serious. (3)
- 援助の忘却 (24-3)
- Y forgets about helping. (3)
- 被援助者 (援助要請者) に対する援助者の好意的態度 (26-0)
- Y feels that X is attractive. (0)
- 罪障感の低減の不必要性 (26-0)
- Y is not for that cause. (0)
- 過去の被援助経験の存在 (26-0)
- Y has the experience being helped. (0)
-



表36 日本における向社会的行動の促進的規定要因（分類カテゴリー）

---

援助者の援助促進的人格特徴
Yが思いやりのある愛他的な人だから
被援助者（援助要請者）の援助促進的人格特徴
Xが好ましい特徴を持っていたから
援助者と被援助者（援助要請者）の間の援助促進的關係
Xが自分の知っている人だったから
援助の必要性の認識
援助が必要だと思ったので
援助者の援助能力や資格の存在
援助の能力や資格が自分にあると思ったから
援助に対する援助者の積極的態度
何か良いことをしてみたかったから
被援助者（援助要請者）に対する援助者の思いやりの存在
Xが気の毒に思えたので
被援助者（援助要請者）に対する援助者の好意的態度
Xが自分の好きな人だったから
被援助者（援助要請者）に対する援助者の非好意的態度
援助者の状況の援助促進的特徴
誰一人として援助しようとしなかったので
Xの近くにいたので
自分以外に誰もそこにいなかったの
そのとき気分が良かったので
被援助者（援助要請者）の状況の援助促進的特徴
他人が援助していたので
援助報酬の期待
報酬や返礼が期待できたから
非援助報酬の期待の欠如
援助出費の予想の欠如
援助出費が小さかったから
非援助出費の予想
援助しないためにこうむる出費が大きかったの
他者の目が気になったので
援助への圧力や義務感の存在
互いに助け合わねばならないと思ったから
援助の義務が自分にあると思ったから
過去の援助への返報
将来の援助への期待
罪障感の低減の必要性
援助要請の原因が自分であり、援助の責任を感じたから
過去の援助経験の存在
援助に成功して良い気持ちになったことがあったの
今までに援助したことがあったから
過去の援助経験の欠如
過去の被援助経験の存在
今まで援助されたことがあったの
過去の被援助経験の欠如

直接的な援助要請の存在  
直接援助を要請されたので  
援助要請の好ましい仕方  
有償の仕事としての援助  
無意識の援助  
無意識に

---

表37 日本における向社会的行動の抑制的規定要因（分類カテゴリー）

---

援助者の援助抑制的人格特徴  
Yが思いやりのない、利己的な人だから  
被援助者（援助要請者）の援助抑制的人格特徴  
Xが好ましくない特徴を持っていたので  
援助者と被援助者（援助要請者）の間の援助抑制的關係  
Xが自分の知らない人だから  
援助の必要性の認識の欠如  
自業自得であり、自分には関係ないと思ったので  
援助が必要だと思わなかった  
援助者の援助能力や資格の欠如  
援助する能力や資格が自分にはないと思ったので  
援助に対する援助者の消極的態度  
自分の難儀は自分で切り抜けるべきだと思ったので  
面倒だったので  
被援助者（援助要請者）に対する援助者の思いやりの欠如  
関わりたくなかった  
被援助者（援助要請者）に対する援助者の好意的態度  
被援助者（援助要請者）に対する援助者の非好意的態度  
Xが嫌いな人だから  
援助者の状況の援助抑制的特徴  
その時の気分が悪かった  
Xから遠く離れていた  
自分以外にも何人かそこにいたので  
被援助者（援助要請者）の状況の援助抑制的特徴  
誰一人として援助しようとしなかった  
他の人が援助していた  
援助報酬の期待の欠如  
報酬や返礼が期待できなかった  
非援助報酬の期待  
援助出費の予想  
目立つのが恥ずかしかった  
援助に必要な出費が大きかった  
お節介と思われなくなかった  
非援助出費の予想の欠如  
他者がどのように思うか気にならなかった  
援助しないために被る出費が小さかった

援助への圧力や義務感の欠如  
援助する義務が自分にはないと思ったので  
過去の非援助への報復  
将来の援助への期待の欠如  
罪障感の低減の必要性  
過去の援助経験の欠如  
今までに援助したことがなかったの  
過去の援助経験の存在  
今までに援助に失敗して嫌な気持ちになったことがあったので  
過去の被援助経験の欠如  
今までに援助を求めて拍否されたことがあったので  
過去の被援助経験の存在  
直接的な援助要請の欠如  
直接援助を要請されなかったの  
援助要請の好ましくない仕方  
代替援助の可能性  
援助の忘却  
無償ゆえの非援助

---

前項3.の1)で紹介したように、日本において高木修（1983, 1987）は、25種類の促進要因と26種類の抑制要因とを用いて、ある特定の類型（群）の向社会的行動の生起を促進する要因の構造、あるいは抑制する要因の構造を、また、要因間の関連構造に基づき行動の生起、あるいは非生起のパターンを解明した。それらの研究で用いられた促進要因と抑制要因を米国の分類カテゴリーに従って分類すると、表36と表37のようになる。表34と表36を、また表35と表37をそれぞれ比較してみると、この米国での研究で得られた行動規定要因が、日本でのそれらよりも、一層網羅的で、広範多様なカテゴリーを包んでいると考えられる。

今後期待される比較文化的な分類学的研究として、これらの研究を米国においても実施し、研究結果の日米比較を行い、それらの構造やパターンの文化差を検討する必要がある。その際には、研究で使用する向社会的行動に適合すると思われる要因を、表34の58個の促進要因と表35の60個の抑制要因の中から30個前後選択することになるだろう。

#### 参 考 文 献

- Allport, G. W., Vernon, P. E. & Lindzey, G. (1960) *A study of Values*. Boston: Houghton Mifflin.
- Bar-Tal, D. (1976) *Prosocial behavior: theory and research*. New York: John Wiley & Sons.
- Berkowitz, L. (1966) A laboratory investigation of social class and national differences in helping behavior. *International Journal of Psychology*, 1, 231-242.
- Berkowitz, L. (1972) Social norm, feeling and other factors affecting helping behavior and altruism. In L. Berkowitz (Ed.), *Advances in experimental social psychology*. Vol. 6. New York: Academic Press.
- Berkowitz, L. & Friedman, P. (1967) Some social class differences in helping behavior. *Journal of Personality and Social Psychology*, 5, 217-225.

- Byrne, D. E. (1971) *The attraction Paradigm*. New York : Academic Press.
- Cialdini, R. B., Vincent, J. E., Lewis, S. K., Catalan, J., Wheeler, D. & Darby, B. L. (1975) Reciprocal concessions procedure for inducing compliance : The door-in-the-face technique. *Journal of Personality Social Psychology*, 31, 206-215.
- Eisenberg-Berg, N. (1979) Development of children's prosocial moral judgment. *Developmental Psychology*, 15, 128-137.
- Eisenberg-Berg, N. & Neal, C. (1979) Children's moral reasoning about own spontaneous behavior. *Developmental Psychology*, 15, 228-229.
- Feldman, R. E. (1968) Response to compatriot and foreigner who seek assistance. *Journal of Personality and Social Psychology*, 10, 202-214.
- Freedman, J. L. & Fraser, S. C. (1966) Compliance without pressure: The foot-in-the-door technique. *Journal of Personality and Social Psychology*, 4, 195-202.
- Gergen, K. J., Gergen, J. M. & Meter, K. (1972) Individual orientations to prosocial behavior. *Journal of Social Issues*, 28, 105-130.
- Goodstadt, M. S. (1971) Helping and refusal to help: A test of balance and reactance theories. *Journal of Experimental Social Psychology*, 7, 610-622.
- Graf, R. C. & Riddell, L. C. (1972) Helping behavior as a function of interpersonal perception. *Journal of Social Psychology*, 86, 227-231.
- 原田純治 (1989) 被援助者の反応に関する研究 日本心理学会第53回大会発表論文集 218.
- 原田純治 (1990) 援助行動と動機・性格との関連 実験社会心理学研究 第30巻 第2号 109-121.
- Harris, D. B. (1957) A scale for measuring attitudes of social responsibility in children. *Journal of Abnormal and Social Psychology*, 55, 322-326.
- Harris, M. B. (1972) The effects of performing one altruistic act on the likelihood of performing another. *Journal of Social Psychology*, 88, 65-73.
- Isen, A. M. (1970) Success, failure, attention and reaction to others: The warm glow of success. *Journal of Personality and Social Psychology*, 15, 294-301.
- Karabenick, S. A., Lerner, R. M. & Beecher, M. D. (1973) Relation of political affiliation to helping behavior on election day, November 7, 1972. *Journal of Social Psychology*, 91, 223-227.
- Krech, D., Crutchfield, R. S. & Ballachey, E. L. (1962) *Individual in society: A textbook of social Psychology*. New York : McGraw-Hill.
- Latané, B. (1970) Field studies of altruistic compliance. *Representative Research in Social Psychology*, 1, 49-62.
- Muir, D. E. & Weinstein, E. A. (1962) The social debt : An investigation of lower-class and middle-class norms of social obligation. *American Sociological Review*, 27, 532-539.
- 二宮克美 (1991) 子どもの思いやり／大人の思いやり 菊池章夫(編)『現代のエスプリ・思いやりの心理(291)』至文堂 38-47.
- Pearce, P., Amato, P. R. & Smithson, M. (1983) Introduction and plan of the book. In Smithson, M., Amato, P. R. & Pearce, P. *Dimensions of helping behaviour*. Oxford : Pergamon Press.
- Pomazal, R. J. & Clore, G. L. (1973) Helping on the highway : The effects of dependency and sex. *Journal of Applied Social Psychology*, 3, 150-164.
- Reykowski, J. (1982) Motivation of prosocial behavior. In Derlega, V. J. & Grzelak, J. (Eds.), *Cooperation and helping behavior*. New York : Academic Press.
- Schwartz, S. H. (1973) Normative explanation of helping behavior: A critique, proposal, and

米国における向社会的行動の分類学的研究（高木）

- empirical test. *Journal of Experimental Social Psychology*, 9, 349-364.
- Sharabany, R. (1974) Intimate friendship among kibbutz and city children and its measurement. Unpublished doctoral dissertation, Cornell University. (University Microfilms No. 74-17, 682)
- Staub, E. (1972) *Positive social behavior and morality* (Vol. 2) New York: Academic Press.
- 高木 修 (1982) 順社会的行動のクラスターと行動特性 年報社会心理学 第23号 135-156.
- 高木 修 (1983) 順社会的行動の動機の構造 年報社会心理学 第24号 187-207.
- 高木 修・竹村和久 (1984) 援助動機と非援助動機の関係 関西大学『社会学部紀要』 第16巻 第1号 51-65.
- 高木 修 (1987a) 順社会的行動の分類 関西大学『社会学部紀要』 第18巻 第2号 67-114.
- 高木 修 (1987b) 非援助動機の構造とそれに基づく非援助行動の特徴づけ 関西大学『社会学部紀要』 第19巻 第1号 27-49.
- 高木 修 (1987c) 援助行動の類型と特性 中村陽吉・高木修(共編) 『「他者を助ける行動」の心理学』 光生館 14-33.
- 高木 修 (1991) 米国における向社会的行動の分類学的研究 (1)向社会的行動の類型 関西大学『社会学部紀要』 第23巻 第1号 141-165.
- 高木 修 (1992) 米国における向社会的行動の分類学的研究 (2)向社会的行動についての規範的態度 関西大学『社会学部紀要』 第23巻 第2号 75-106.
- Thayer, S. (1973) Lend me your ears: Racial and sexual factors in helping the deaf. *Journal of Personality and Social Psychology*, 28, 8-11.